



三重大学統合報告書 2019

三重大学統合報告書2019



国立大学法人
三重大学

〒514-8507 津市栗真町屋町1577
TEL 059-232-1211 (代)
2019年12月

国立大学法人 三重大学

三重の力を世界へ

地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す。

～人と自然の調和・共生の中で～

基本理念

三重大学は、総合大学として、教育・研究の実績と伝統を踏まえ、

「人類福祉の増進」「自然の中での人類の共生」「地域社会の発展」に貢献できる「人材の育成と研究の創成」を目指し、
学術文化の発信拠点となるべく、切磋琢磨する。



Contents

Message

03 | 学長メッセージ

Vision

04 | 三重大学を創る6つのビジョン

Overview of Mie University

三重大学の概要

05 | 三重大学沿革

06 | 数字で見る三重大学の基礎情報

07 | 三重大学の運営体制

09 | 教育

17 | 研究

19 | 社会連携・地域貢献

27 | 国際交流

31 | 環境

33 | 医学部附属病院

37 | 決算状況

Message



学長メッセージ 大学の力を社会へ発信する

三重大学は美しい自然環境の中にあります。伊勢湾の海の翠、鈴鹿山脈や布引山地の樹々の翠、そして白い雲が浮かぶ翠の空、3つの翠(三翠)に囲まれた環境に優しい大学です。この自然に恵まれたキャンパスで、社会のリーダーとなるグローバル人材の育成、独創的で自由な発想に基づく研究が活発に行われています。そして、逞しい人材を社会に輩出し、優れた研究成果を発信する地域における「知」の拠点としての役目を担っています。

三重大学は、人文学部、教育学部、医学部、工学部、生物資源学部に地域イノベーション学研究科を加えた5つの学部、6つの研究科をはじめ、教養教育院、地域人材教育開発機構、地域イノベーション推進機構、および国際交流センター、国際環境教育研究センター、総合情報処理センター、学生総合支援センター、地域創生戦略企画室など、多くの学内共同教育研究施設を擁する総合大学です。また、附属病院、附属学校園、農場、演習林、水産実験所、練習船勢水丸などの附属施設も充実しています。

昭和24年の建学以来の伝統と実績に基づいて、「三重の力を世界へ：地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す～人と自然の調和・共生の中で～」を基本的な目標として掲げ、地域社会や住民の皆様との緊密な連携をとりつつ、「人類福祉の増進」「自然の中での人類の共生」「地域・国際社会の発展」に貢献できる「人材の育成と研究の創成」に取り組んでいます。

地域社会では少子高齢化が凄まじい速度で進みつつあり、競争の原理が過度なまでに社会を支配しつつあります。時として、将来に不安を感じ、心が萎えてしまうこともあるのではと思います。このような困難な時代にこそ、オール三重大学で、地域の皆さんを元気にし、社会を活性化するため、精一杯の努力をしていきたいと思えます。

地域の皆様に信頼され頼りにされる大学を目指して行きます。今後とも、ご協力、ご支援をいただきますようお願いいたします。

三重大学長 駒田美弘

Vision

1 ● 安心感のある運営と改革

学長のリーダーシップ

第3期中期目標に定められた“持続的な競争力と高い付加価値を生み出す大学の構築”と教職員の生活を守る大学運営に、リーダーシップを発揮します。

分析企画力の向上

IR(機関調査)機能を強化し、適切な業務分析に基づく透明性のある大学改革を前進させます。

財務基盤の強化

附属病院を効率的、安定的に経営し、大学の財務基盤を強化します。

2

● 社会の未来を創る高等教育

大学の役割の明確化

地域圏唯一の国立大学法人としての役割を明確化し、三重大学の強みを活かした教育研究活動を実践します。

リーダーの育成

本学の教育目標に掲げる「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、「生きる力」を発揮し、社会を牽引する自立したリーダーを育てます。

高度専門職業人の養成

教養教育の充実とともに学部専門教育、大学院教育の進展を図り、高い教養を持って社会で活躍する高度専門職業人を養成します。

3

● 女性・若手に優しいキャリア支援

子育て世代に優しい職場環境

保育施設の整備、病児保育や学童保育の拡充、タイムシェアリングに取り組み、ワークライフバランスに配慮した家族と子どもに優しい環境を創ります。

女性教職員の積極的登用

女性の視点を大切にし、女性教職員のキャリア支援を推進します。

若手教職員の成長支援

テニュアトラック制度、研究支援体制、教職員の能力向上を目指すSD/FDを充実させ、若手教職員の成長を支援します。

三重大学を創る6つのビジョン

4

● 大学発の地域イノベーション

地域活性化の拠点形成

地域活性化の中核的拠点機能の充実に向けて、地域イノベーションをさらに進展させます。

産学官民連携の推進

産業界や行政、NPOへの積極的な支援と地域大学間ネットワークの構築を推進し、知的財産の創造、技術革新の創出を実現します。

大学主導の地域創生

地場産業の振興、地域医療の充実、防災減災などの地域課題に取り組み、持続性のある魅力的な地域創生に貢献します。

5

● 多様で独創的な学術研究

研究基盤の整備

日本の将来を拓く“研究の多様性”を維持し、研究者の持つ意欲・能力を最大化する研究実施基盤と研究費獲得基盤を整備します。

多分野融合型研究の活性化

総合大学の強みと中規模大学の機動力を活かした多分野融合型研究を活性化させます。

研究成果の社会への還元

研究成果を積極的に発信し、地域社会と国際社会の持続発展に寄与する大学を目指します。

6

● 自然と共生するグローバル・キャンパス

教育研究環境のグローバル化

外国人留学生獲得と外国人教員招聘、海外拠点形成を強化し、グローバル・キャンパスを実現します。

世界から評価される教育研究水準の達成

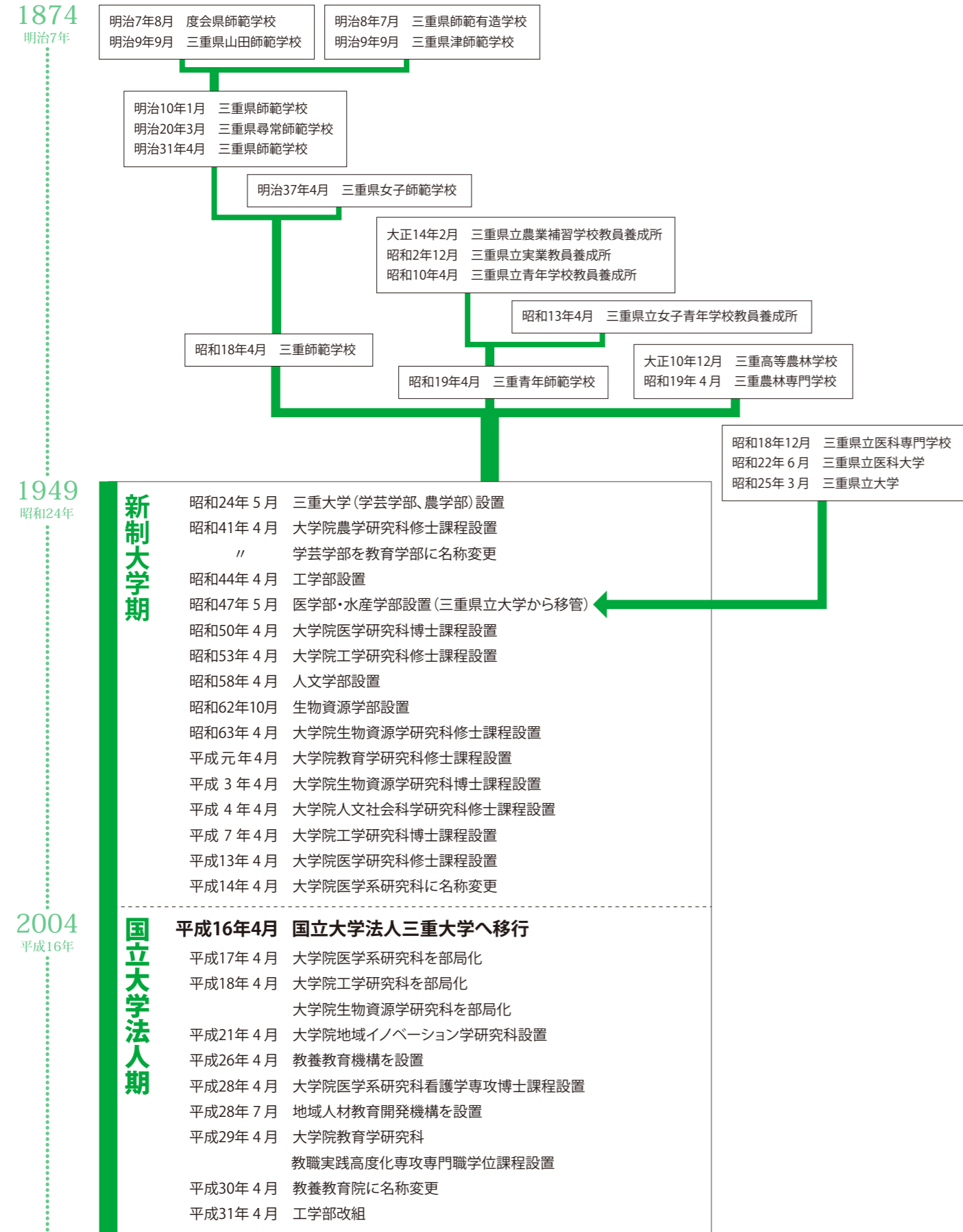
国際通用性のある教育、学生の留学、教職員の海外研修、国際共同研究を推進します。

自然豊かなグリーン・キャンパス

学生と外国人留学生が、自然豊かで快適な環境で共に学ぶグリーン・キャンパスを目指します。

Overview of Mie University 三重大学の概要

三重大学沿革



数字で見る三重大学の基礎情報

組織規模

学部・研究科等

- 5 学部
- 9 学科
- 1 課程

医学部附属病院 (平成30年度)

- 病床数 **685** 床
- 入院患者延数 **211,802** 人
- 外来患者延数 **340,695** 人
- 一日平均入院患者数 **580.3** 人
- 一日平均外来患者数 **1,396.3** 人

教職員数

全体 **1,994** 人 (令和元年5月1日現在)

- 役員** **8** 人
- 教員** **770** 人
- 職員** **1,216** 人

学生数

学部学生 **6,028** 人 (令和元年5月1日現在)

大学院学生 **1,111** 人 (令和元年5月1日現在)

国際交流

外国人留学生 **291** 人 (令和元年5月1日現在)

海外留学生 **425** 人 (平成30年度)

国際交流状況 (令和元年5月1日現在)

- 海外大学間協定数 **63** 件 (24カ国)
- 海外大学学部間協定数 **53** 件 (26カ国)

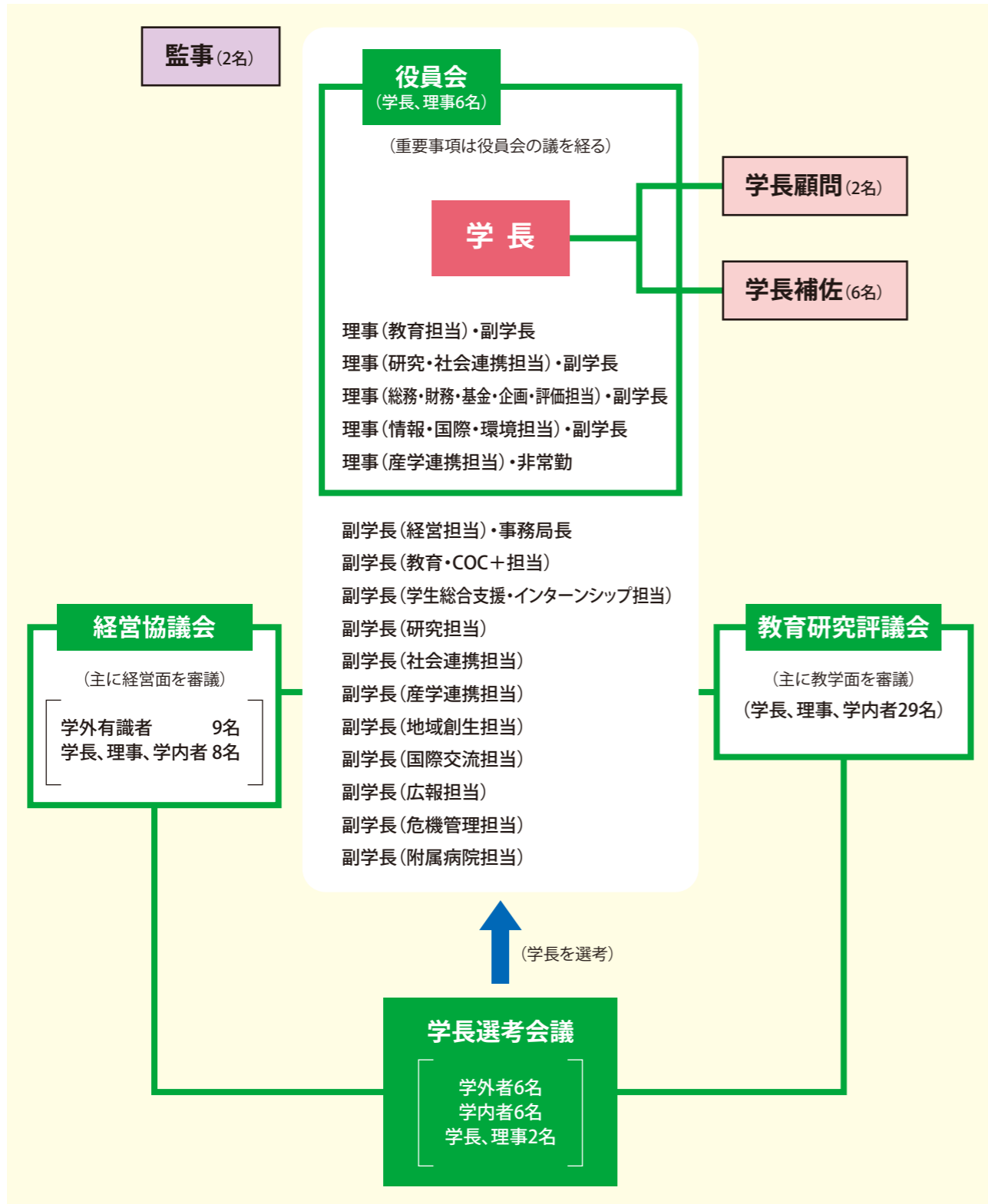
予算・施設

予算規模 **45,840** 百万円 (令和元年度) (収入・支出)

土地面積 **5,511,692** m² (令和元年5月1日現在) (うち借受地91,944m²)

建物面積 **321,943** m² (令和元年5月1日現在)

運営体制



監事監査

監事は、業務の適正かつ効率的な運営を確保すると共に、会計経理の適正を期することを目的に監査を実施しています。監査の方法は、内部監査部門や会計監査人と連携し、毎年度の監査計画に監査事項を設定して実施するほか、役員会・教育研究評議会・経営協議会やその他重要な会議に出席し、ガバナンス体制や学長及び理事の職務の執行が法令などに適合することを確保するための体制(内部統制システム)について整備・運営状況を確認しています。

毎年度の定期監査項目

- 役員会、教育研究評議会、経営協議会の運営状況
- 会計処理、財務諸表の作成、決算報告の状況
- 附属病院の運営状況

中期計画における重点項目

- 中小企業との共同研究数倍増目標への取組
- COC+事業推進への取組
- インターンシップの推進への取組
- 地域拠点サテライトの推進状況

また、内部監査部門との連携では、下記の通りの監査を実施しております。

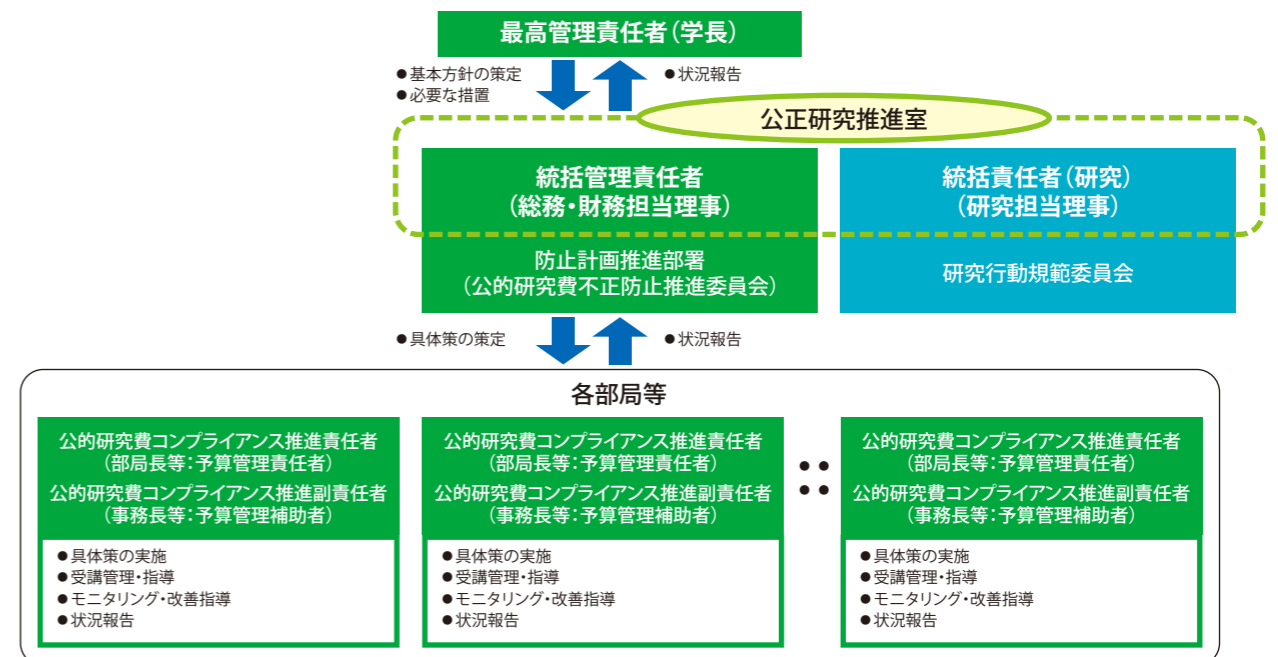
- 公的研究費不正防止の取組
- 附属学校(幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校)のリスクマネジメント
- 資産(施設・設備)の活用(稼働)状況
- 毒物劇物の管理状況
- 入学者選抜のリスクマネジメント

公的研究費の不正防止に関する責任体制

公的研究費の不正防止に関する責任体制は以下のとおりです。

公的研究費の原資の多くは「国民の税金」であり、社会から負託されたもので、研究者個人のものではないことから、その不正使用は、研究者個人だけの問題ではなく、これまで築き上げてきた本学への信頼を揺るがしかねない極めて重大な問題です。

三重大学においては、競争的資金等及び運営費交付金により配分される研究資金(以下「公的研究費」という。)を適正に管理・運用し、不正使用の発生リスクを減少させ、不正使用を防止することを目的として責任体制を構築しています。



三重大学は、学術文化の発信・受信拠点として「人と自然の調和・共生」を大切にしながら、地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出すことを目指しています。そのために、「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、そしてそれらを総合した「生きる力」がみなぎり、地域に根ざし、国際的にも活躍できる人材の育成を目標にしています。この目標を達成するための全学的組織として地域人材教育開発機構が設置されており、その協力の下、教養教育院や各学部においてそれぞれの特色を生かした教育プログラムが展開されています。

教育目標

4つの力を育成する

■ 感じる力

感性、共感、主体性

■ 考える力

幅広い教養、専門知識・技術、論理的・批判的思考力

■ コミュニケーション力

表現力(発表・討論・対話)、リーダーシップ、フォロワーシップ、実践外国語力

■ 生きる力

問題発見・解決力、心身の健康に対する意識、社会人としての態度・倫理観



あなたの4つの力を全学の教職員が引き出します

三重大学のアドミッションポリシー(三重大学が求める学生像)

三重大学は、本学の一員となって学び続ける意欲を持つ、次のような学生を求めます。

- ◎入学後の修学に必要な基礎的知識と技能を有している(知識・技能)
- ◎ものごとを多様な視点から捉え、論理的に考えることができる(思考力・判断力)
- ◎自分の考えを的確に表現し、伝えることができる(表現力)
- ◎人や自然に対して関心を持ち、社会に貢献したいという意欲を有している(主体性)
- ◎他の人と相互理解を図り協力して、新しい課題に積極的に挑戦しようとする態度を有している(協働性・主体性・多様性)

上記の方針に基づき、学士課程においては学部ごとに、また大学院課程においては研究科ごとに、適切な選抜方法を定め、実施します。

教育の特色

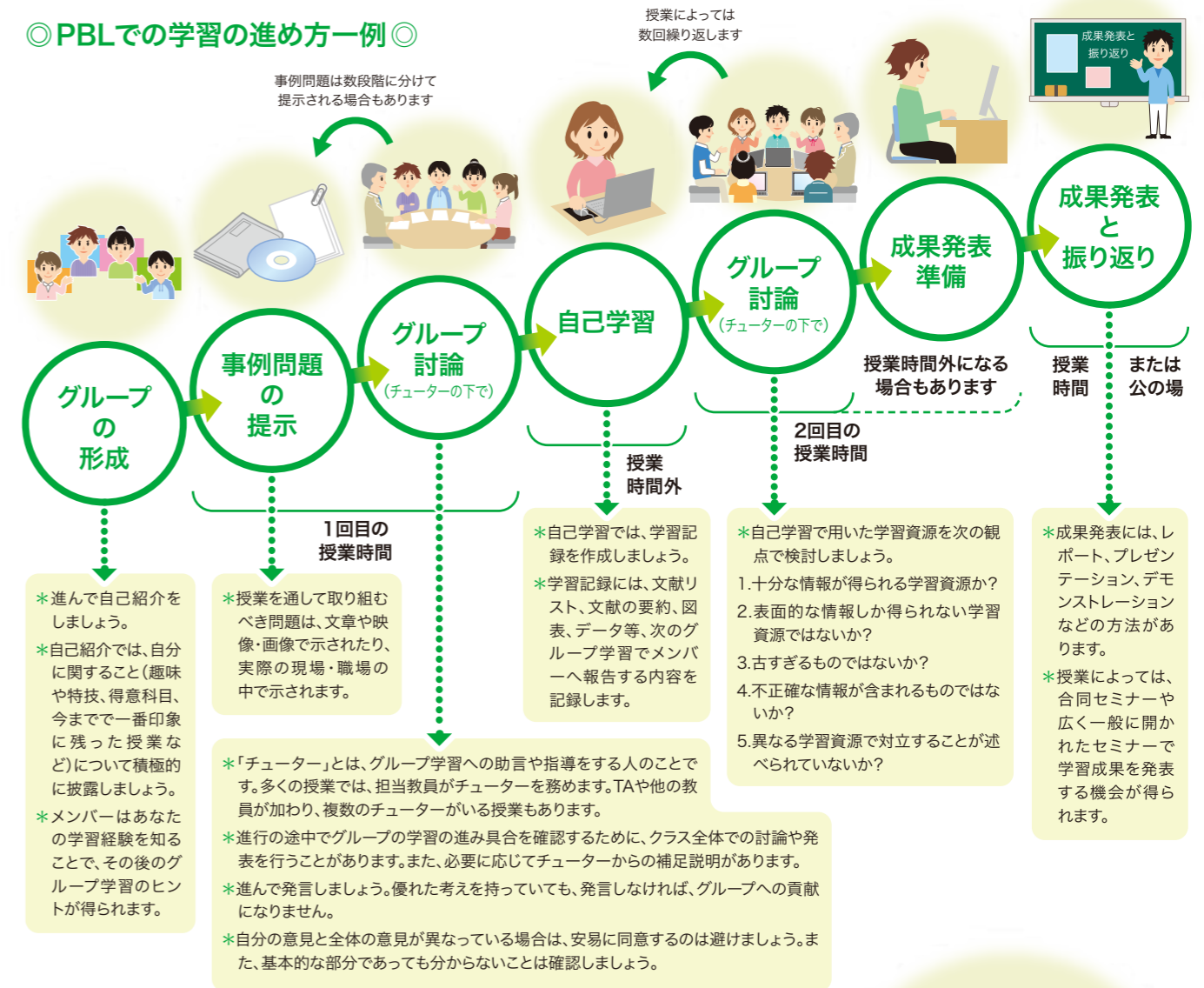
PBLって何?

PBL: Problem-based Learning; Project-based Learning

講義中心ではなく、学生の主体的な学習が中心の授業です。

教員は、学生の学習を支援し、議論を活性化する役割を担います。

◎PBLでの学習の進め方一例◎



eラーニング

コンピュータやネットワークを利用して学習することをeラーニングと言います。

本学では、対面型授業だけでなく、「Moodle(ムードル)」というツールを使って、インターネットを活用したeラーニングを進めています。

Moodleを使えば、場所が限定されることなく自宅からでも、資料を見たり、レポートを提出したりできます。Moodleのフォーラム(電子掲示板)やチャットで、学生と教員、学生同士がどこからでもコミュニケーションできます。



教養教育

グローバル社会で自ら学び続ける人材を育てる教養教育

入学後、学部・学科の授業と共に、全学共通の授業を受講します。



幅広い教養の基盤に立った高度な専門知識や技術を有し、社会に積極的に貢献できる人材を育成

教養教育カリキュラムは、三重大学生が共通に履修する「共通カリキュラム」とそれぞれの学部の理念・目的に基づいて履修内容が定められた「目的別カリキュラム」から成り立っています。「目的別カリキュラム」では、専門分野における基礎知識を学ぶ「基礎教育」や自らの将来を考える「キャリア教育」などの科目も履修することができます。

| | | | |
|--------|---------------|--------------------------|------|
| | 自律的・能動的学修力の育成 | グローバル化に対応できる人材の育成 | |
| | 教養教育 | | 専門教育 |
| | 共通カリキュラム | 目的別カリキュラム | |
| 教養基盤科目 | アクティブ・ラーニング | スタートアップセミナー 教養ワークショップ | |
| | 外国語教育 | 英語 | |
| | 異文化理解 | 異文化理解基礎 異文化理解演習 | |
| | 健康科学 | スポーツ健康科学 | |
| 教養統合科目 | 地域理解・日本理解 | | |
| | 国際理解・現代社会理解 | | |
| | 現代科学理解 | | |

共通カリキュラム

アクティブ・ラーニング

自律的・能動的学修力の育成を目指して

- **スタートアップセミナー(必修)**
前期開講。4つの力の育成を目指し、グループでプロジェクトに取り組みます。特に「話す」「聞く」能力を育成します。
- **教養ワークショップ(必修)**
後期開講。新書を読んでグループで議論し、それぞれが書評にまとめます。特に「読む」「書く」能力を育成します。



外国語教育

グローバル化に対応できる力の育成を目指して

- **前期集中型カリキュラム(必修)**
入学後集中して英語を学びます。全員が入学時と前期終了時TOEIC IPテストを受験し、自分の英語力を自覚します。
- **英語特別プログラム**
TOEIC IPテストの成績優秀者のためのプログラムで、アクティブ・ラーニングや教養統合科目の一部も英語で受講します。春休みにはイギリスのシェフィールド大学で実施する海外研修に参加できます。



異文化理解

多様な文化を理解するグローバル人材育成のための科目です。ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語のいずれかの言語を手段として、その言語が使用される文化圏の文化、歴史、生活等を理解する科目を履修します。

健康科学

体育の実技と健康科学等の講義を組み合わせた新たな授業により、健康的な生活ができる自己管理能力を育成します。

地域理解・日本理解

バランスのとれた国際人となるよう、地域を理解し、それを地域において活用することを目指す科目、日本を理解する科目を履修します。



国際理解・現代社会理解

今後の複雑な国際社会に対応できる人材を育成するため、東西の歴史や思想、政治・経済・社会のしくみ、現代の国際情勢などを学ぶ科目を履修します。

現代科学理解

国際社会を理解するために必要な情報科学、環境とエネルギー、生命科学などさまざまな科学的問題の基本的知識とそれらについて合理的・科学的に考える力を育成する科目を履修します。

教養基盤科目

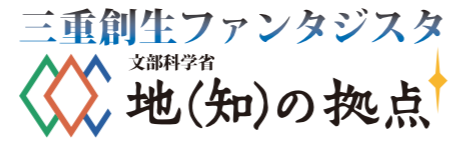
教養統合科目

三重創生ファンタジスタ

三重創生ファンタジスタ資格とは

三重県は全国2位の経済成長率※を誇り、とくに製造業を中心とした生産力の向上や周辺産業の創出に対して、若い優秀な人材を求める声が高まっています。伊勢湾に生まれた海の幸や南北に長い地勢から生まれる山の幸、日本人の心の拠り所である伊勢神宮や世界遺産・熊野古道、自動車産業の夢の舞台である鈴鹿サーキットやMRJに代表される航空宇宙産業など、数多くの地域資源をいかにして産業に結び付けるかの地域イノベーションが期待されています。 ※2009-2018 県民経済計算より

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」における三重県での取組みとして、三重県内の全高等教育機関(四年制大学、短期大学、高等専門学校)と県内企業、自治体が協力してこれらの地域イノベーションに貢献する人材「三重創生ファンタジスタ」を養成しています。学生たちは地域について学ぶ授業やイベントなどを通し、課題解決能力やリーダーシップ、コミュニケーション力を現場で身につけ、地域で活躍する人材を目指しています。



「三重創生ファンタジスタ」とは…

状況や事態を的確に把握し、複眼的な視点から柔軟で想像力と創造力に富んだ発想や思考ができ、行動力とリーダーシップを発揮しながら、周りの人と協働できる人材

現在、この資格には下図のように3つのクラスがあります。三重創生ファンタジスタ資格を取得した学生は、段階的にステップアップし、地域に貢献するための知識や行動力が養われます。これらのプログラムにより様々な科目で三重を学んで、三重の課題に取り組む意欲の高い学生を養成しています。

地域の課題に応える三重創生ファンタジスタへ

エキスパート

高度な社会人基礎力を備え、地域課題の解決に主導的に取り組み、地域イノベーションを創出することができる

アドヴァンス

ベーシックで得られた地域への深い知識に加えて、地域が抱える固有の課題(食と観光分野、次世代産業分野、医療・健康・福祉分野)に対して、他者と協働して解決策を提案することができる

ベーシック

三重県の歴史・文化・産業等の特徴を理解し、地域が抱える課題に対して深く関心を持ち、主体的な活動を期待できる

※三重大学では、エキスパート、アドヴァンスの資格を取得することができます。

「三重創生ファンタジスタ」資格認定副専攻コース

三重創生ファンタジスタ

食と観光分野

次世代産業分野

医療・健康・福祉分野

3つの科目群から
12単位以上修得

1～2年次

地域志向科目群
4単位以上

- 三重県の自然・地理・歴史・文化・産業・教育・医療の実態について学び直す
- 講義形式中心(ゲストスピーカーによる講義を一部含む)
- 「スタートアップセミナー」(全学必修科目)
- 創造力・問題発見・探求力・郷土愛

2～3年次

地域実践交流科目群
2単位以上

- 地域に入り、地域の活動に参画することを通して、現状や課題を体験的に理解する
- PBLセミナー、熟議・討論型授業、インターンシップ、実習(現地・現場)
- コミュニケーション力、実践・行動力、情報収集・分析力、理解・判断力

3～4年次

地域イノベーション学科目群
2単位以上

- 地域の人と協働しながら、地域や産業の活性化・再生にむけたプロジェクトや共同研究を組織し、アイデアやプランを提案する
- プロジェクト、共同研究、プレゼンテーション
- 柔軟な発想・構想力、複眼的・俯瞰的な思考、企画・計画力、リーダーシップ

(三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻コースイメージ)

三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻コースでは、三重県の重要施策である3つの分野の課題に対して、様々な提案ができる人材(三重創生ファンタジスタ)を、3つの科目群を学修することによって養成します。

3つの
分野

1. 食と観光分野
2. 次世代産業分野
3. 医療・健康・福祉分野

3つの
科目群

1. 地域志向科目群「知る」(再発見・再認識)
2. 地域実践交流科目群「学ぶ」(体験・経験を通して学ぶ)
3. 地域イノベーション学科目群「考える」(再構成・発信)

◎三重創生ファンタジスタの養成は下記の事業協働機関、事業協力機関とともに行っています

【高等教育機関】四日市大学、四日市看護医療大学、鈴鹿医療科学大学、鈴鹿大学、三重県立看護大学、皇學館大学、ユマニテク短期大学、鈴鹿大学短期大学部、高田短期大学、三重短期大学、鈴鹿工業高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、近畿大学工業高等専門学校

【自治体】三重県

【企業(50音順)】(株)アーリーバード、ICDAホールディングス(株)、(株)医用工学研究所、(有)オズ海島遊民くらぶ、(株)サン浦島、(有)深緑茶房、(株)ZTV、大王運輸(株)、中外医薬生産(株)、辻製油(株)、(株)ドリームエージェント、(株)中村製作所、日本土建(株)、(有)野瀬商店、橋本電子工業(株)、(株)ハツメック、速水林業、万協製菓(株)、(株)光機械製作所、(株)百五銀行、(株)百五総合研究所、(株)ヒラマツ、扶桑工機(株)、(株)前田テクニカ、(株)マサヤグループ本社、三重県商工会議所連合会、三重県商工会連合会、三重県中小企業家同友会、三重県農業協同組合中央会、(株)三重ティーエルオー、三重テレビ放送(株)、(株)メディサポジャパン、(一社)わくわくスイッチ

COC+事業終了後は、高等教育コンソーシアムみえの取組として、継続して「三重創生ファンタジスタ」を県内高等教育機関、企業、自治体が協働で養成します。

三重創生ファンタジスタクラブ

平成29年4月に組織され、12名からスタート、令和元年11月現在で43名の学生が所属している。各種プロジェクト、地域活動に取り組むクラブとの連携、他高等教育機関学生との交流と活動の広がりをみせている。

- 美杉町での活動
- 各種地域イベントへの参加・出展
- 県内の魅力的なスポットを取材・発信
- オープンキャンパス、サマーセミナー参加
- ファンタジスタ資格説明会
- 企業担当者、外部評価委員との懇談
- COC+シンポジウム司会
- 県内の食材を使ったカフェ&バーの経営 など

地域での様々な活動の中で主体性、課題解決力、コミュニケーション力等が育まれている。



三重創生ファンタジスタの教育プログラムを修了した学生が就職活動を開始



人事担当者様へ

三重創生ファンタジスタ資格を取得する見込のある学生がH30年度から就職活動を始めています。履歴書やエントリーシートに「三重創生ファンタジスタ資格」と記載されている場合があります。面接では三重創生ファンタジスタに関する質問をどんどんしてください。詳しくはQRコードより、資格に関する説明動画をご覧ください。



COC+オリジナル科目の開設

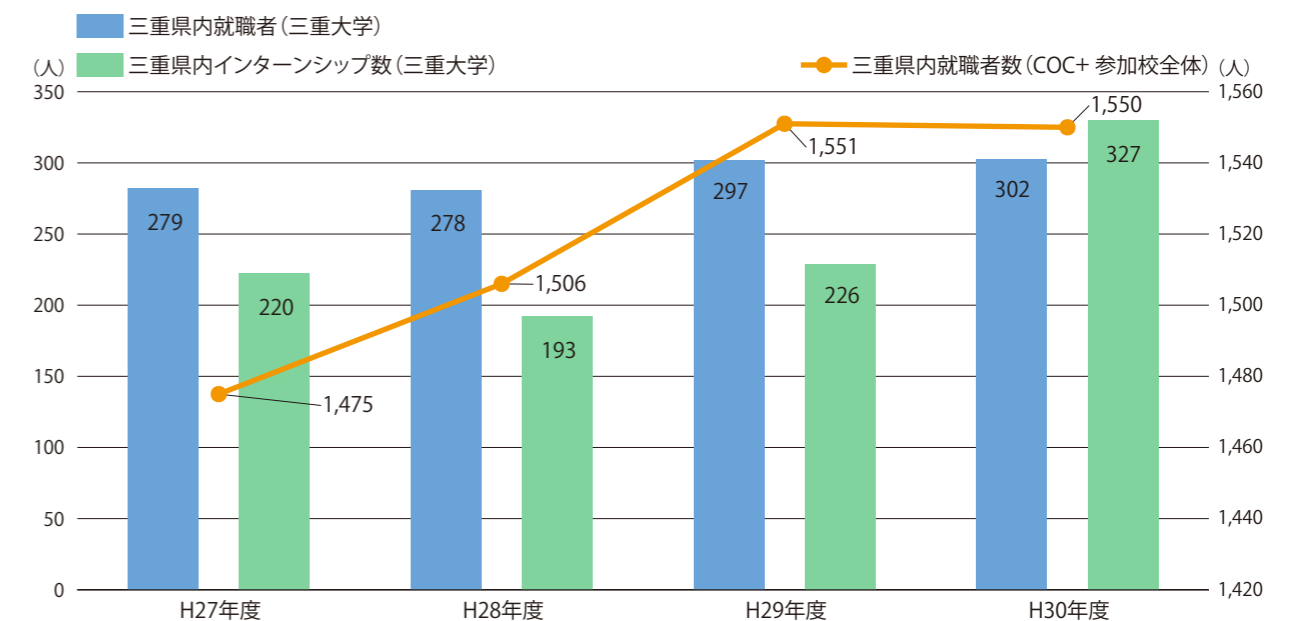
COC+では、「三重県を深く知り、三重県で活躍したい」と考える学生をより実践的に養成するため、三重創生ファンタジスタ専任教員と県内の高等教育機関の教員が連携して、下記に示すCOC+オリジナル科目やその他単位互換科目を開講しています。



| 科目 | 科目群 | 特長 |
|-------------------|----------------|---|
| 三重の歴史と文化 三重の産業 | 地域志向科目群 | 「三重の歴史と文化」および「三重の産業」に精通したゲストスピーカーを迎え、三重の豊かな歴史、文化、先人の功績、観光展開、産業の特色や強み等を学ぶ座学授業。 |
| 食と観光実践 | 地域実践交流科目群 | 地域をフィールドとして、「食と観光」を切り口に、課題発見と解決方法を、グループワークを通じて学ぶPBL型授業。 |
| 次世代産業実践 | | 三重の「次世代産業」をテーマとして、第一線で活躍するスペシャリストと共に、課題発見と解決方法を学ぶPBL型授業。 |
| 医療・健康・福祉実践 | | 三重県の過疎地域における医療・健康・福祉の現状を知り、課題抽出や解決策の提案を目的とするPBL型集中講義。 |
| 地域発見型インターン | | 1dayインターンおよび事前・事後学習を通じて学生自身が県内の中小企業を深く知る教育的インターンシップ。 |
| 三重の地場産業 | 地域イノベーション学科科目群 | 三重県の地場産業をテーマに、第一線で活躍する専門家をゲストスピーカーとして招き、地場産業が抱える課題の発見と、実現可能な解決策を提案することを目的とする授業。 |
| 自然環境リテラシー学 | 地域実践交流科目群 | 三重県の自然を体験できるプログラムの開発や魅力を伝える人材の養成を目的に県と協働で開講された授業。 |

県内インターンシップ数・就職者数の推移

三重県内インターンシップ数および県内就職者数はCOC+事業開始後増加傾向



多様で独創的な研究を充実させ、社会に成果を還元

三重大学は、多様な独創的な応用研究と基礎研究の充実を図り、さらに固有の領域を伝承・発展させると共に、総合科学や新しい萌芽的・国際的研究課題に鋭意取り組み、研究成果を社会に積極的に還元します。

地域の課題を探求するならば、それが狭い研究分野の枠に収まり切るなどということは決してなく、本学の研究が産業へ、経済へ、社会へと通じ、また自然へ、歴史へ、文化へと連なっていく。これこそが、私たちの本当の未来の姿を描き出す研究の動機であり契機となります。

本学は、各種学問の横断的総合体として、地域との強い絆を持ち続けます。

研究に関する目標

1. 研究水準及び研究の成果

研究者の自由な発想に基づく基礎研究を進展させ、それぞれの学術分野や学際領域における特色ある研究を推進し、本学を代表する領域においては、世界水準の研究を推進する。

2. 研究成果の教育への反映及び社会への還元

研究成果を教育に反映させ、社会に還元するために、地域自治体や産業界との産学官連携活動等を推進する。

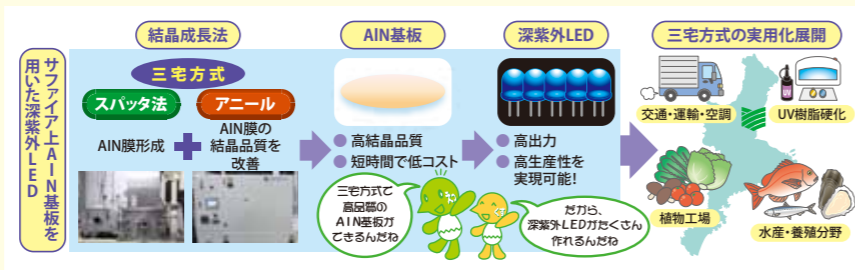
◎ 研究による地域イノベーションの推進 ◎

1. リサーチセンター

三重大学では、研究の最終ターゲットを共有する様々な分野の研究者が横断的に研究グループを作り、新たな視点を持った研究や新技術の創生を目指す事を目的とした"三重大学リサーチセンター"を設置しています。

重点的に支援するリサーチセンター

- (1) 卓越型リサーチセンター
- (2) 若手リサーチセンター



卓越型リサーチセンターの一例(特異構造の結晶科学リサーチセンター)

2. 若手研究者の支援

若手研究者(39歳以下)による研究と異分野(複数の学部・研究科、学科)の連携研究及び国際共同研究を強化するために、海外で開催される学術研究集会の旅費支給、研究資金及び研究スペースの提供を行っています。

3. 共同研究機器の整備

三重大学における設備整備に関するマスタープランを作成し、それに基づき計画的に設備を整備しています。



高速液体クロマトグラフ質量分析装置



試料水平型多目的X線回折測定装置

4. 地域拠点サテライトに関連する研究センター・学舎等

地域の特徴ある教育研究を産学官連携で推進する研究の拠点として設置しています。

- (1) 伊賀サテライト(国際忍者研究センター、伊賀研究拠点)
- (2) 東紀州サテライト(東紀州教育学舎、東紀州産業振興学舎)
- (3) 伊勢志摩サテライト(海女研究センター)
- (4) 北勢サテライト(知的イノベーション研究センター)

5. 連携大学院

学術および科学技術の発展に寄与するために、連携大学院の協定を個別に締結しています。

農研機構野菜花き研究部門、増養殖研究所、森林総合研究所関西支所、太陽化学、医薬基盤研究所、成育医療研究センター、三重中央医療センター、三重病院等

三重大学リサーチセンター

リサーチセンターについて

近年、大学を取り巻く環境が大きく変わってきており、大学の教育・研究も、今までの狭い専門領域にとらわれず、学際的、総合的な視点から、複雑化、多様化する現代社会に柔軟に対応し、創造的、国際的な視野をもった研究が必要となってきています。また、科学技術の分野でもその発展はめざましいものがあり、新しい技術を創生するためには、異分野の先端技術を複合的に組み合わせながら、新たな理論的、実践的な研究体系の構築が不可欠となっています。

このように、教育・研究の環境変化が進む中、三重大学では、様々な分野の研究者が横断的な研究グループを作り、新たな視点を持った研究や新技術の創生を目指す事を目的とした"三重大学リサーチセンター"を設置しました。

リサーチセンターは、既存の研究室の枠にとらわれずに、最終ターゲットを共有する、異分野の研究者が集まり、独創的な研究の創出を目指すグループです。このリサーチセンターを核として、研究の更なる活性化、先端研究の拠点化、地域イノベーションの推進が図られることを期待しています。

● 卓越型リサーチセンター

平成31年4月1日現在

| 番号 | センターの名称 | 代表者名 |
|----|--------------------------------|------------------------|
| 1 | 三重大学次世代型電池開発センター | 工学研究科 教授 今西 誠之 |
| 2 | 三重大学人間共生ロボティクス・メカトロニクスリサーチセンター | 工学研究科 教授 池浦 良淳 |
| 3 | 三重大学特異構造の結晶科学リサーチセンター | 地域イノベーション学研究科 教授 三宅 秀人 |
| 4 | 三重大学次世代型VLPワクチン研究開発センター | 医学系研究科 教授 野阪 哲哉 |
| 5 | 三重大学次世代型創薬ゼブラフィッシュスクリーニングセンター | 医学系研究科 講師 島田 康人 |
| 6 | 三重大学コーディネート育種基盤創生リサーチセンター | 生物資源学研究科 准教授 諏訪部 圭太 |

● 若手リサーチセンター

平成31年4月1日現在

| 番号 | センターの名称 | 代表者名 |
|----|-----------------------------|------------------|
| 1 | 三重大学モーションコントロールリサーチセンター | 工学研究科 助教 矢代 大祐 |
| 2 | 三重大学新たな需要を喚起する循環型農業リサーチセンター | 生物資源学研究科 講師 坂井 勝 |

● リサーチセンター

令和元年8月1日現在

| 番号 | センターの名称 | 代表者名 |
|----|-----------------------------|------------------------|
| 1 | 三重大学疾患ゲノム研究センター | 地域イノベーション推進機構 教授 山田 芳司 |
| 2 | 三重大学環境エネルギー工学研究センター | 工学研究科 教授 廣田 真史 |
| 3 | 三重大学地域ECOシステム研究センター | 人文学部 教授 朴 恵淑 |
| 4 | 三重大学メディカルゼブラフィッシュ研究センター | 医学系研究科 教授 丸山 一男 |
| 5 | 三重大学脳解析センター | 医学系研究科 教授 成田 正明 |
| 6 | 三重大学マトリックスバイオロジー研究センター | 医学系研究科 准教授 今中 恭子 |
| 7 | 三重大学ソフトマターの化学リサーチセンター | 工学研究科 教授 鳥飼 直也 |
| 8 | 三重大学次世代ICTリサーチセンター | 工学研究科 教授 成瀬 央 |
| 9 | 三重大学バイオエンジニアリング国際教育研究センター | 医学系研究科 教授 島岡 要 |
| 10 | 三重大学環境低負荷プロセスリサーチセンター | 工学研究科 教授 金子 聡 |
| 11 | 三重大学複合的がん免疫療法センター | 医学系研究科 准教授 宮原 慶裕 |
| 12 | 三重大学難病研究センター | 医学系研究科 教授 ガバザ エステバン |
| 13 | 三重大学海藻バイオリファイナー研究センター | 生物資源学研究科 准教授 柴田 敏行 |
| 14 | 三重大学先天性心疾患・川崎病センター | 医学部附属病院 准教授 三谷 義英 |
| 15 | 三重大学スマートセルイノベーション研究センター | 生物資源学研究科 教授 田丸 浩 |
| 16 | 三重大学初等教育におけるドローンの教育利用研究センター | 教育学部 教授 荻原 彰 |

教育と研究を通して地域と連携

三重大学は、教育と研究を通じて地域づくりや地域発展に寄与するとともに、地域社会との双方向の連携を推進します。地域に根ざした知の支援活動と、産学官民連携の強化と推進を図ります。

社会連携

三重大学では、自由で独創的な知の創造という大学の教育・研究の特性に根ざした、産・学・官・民の連携交流の拠点を整備することにより、社会的に貢献し得る新たな知を科学と技術の両面にわたって創造することが、大学の活性化と社会への寄与に極めて重要な意義を持つものと考え、社会連携活動を活発に取り組んでいます。

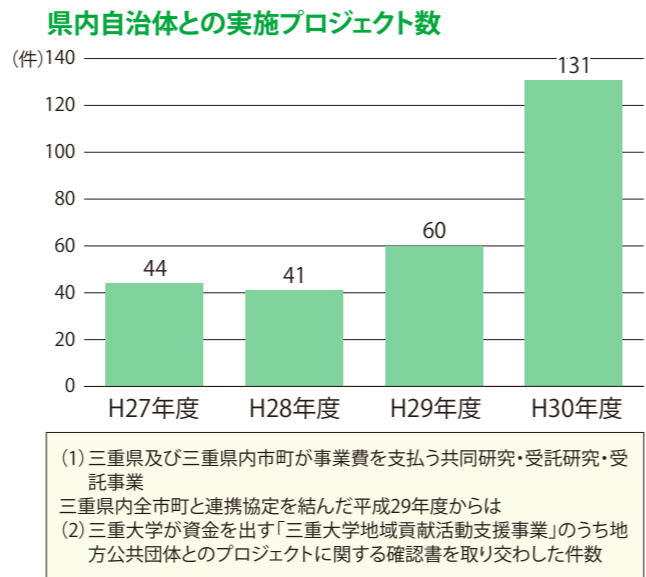
一方、青少年や一般社会人向けの啓発関連事業として、青少年のための科学の祭典、Jr.ロボコンなど、また、社会人等を対象としたみえ防災塾、専門職防災研修、MOT(技術経営)講座などによる実践教育を行っています。

平成21年度からは、独立大学院「地域イノベーション学研究科」を設置し、共同研究を通じた実践的人材育成を行い、地域産業界の核となる人材の輩出を目指しています。

また、平成23年4月に「地域戦略センター(現:地域創生戦略企画室)」を設置し、地方自治体との連携によって、地域が抱える産業育成、地域振興、観光政策、環境政策等の諸問題に対する政策提言等を行う活動を開始したほか、平成25年4月からは、地域圏防災・減災研究センターを設置し、三重県を中心とした地域圏における防災及び減災に関する研究、教育、社会連携の推進及び災害医療への寄与にも取り組んでいます。

地方自治体との連携・協力協定

三重大学では、三重県の地域創生戦略の一つとして、県内全ての自治体(29市町)との協定締結とプロジェクトの実施を目指して取り組んでおり、協定締結については、平成28年度に県内全市町との協定締結を実現しました。今後は、三重県はもとより既に協定を締結している県内各市町とも、それぞれの協定に基づいて、地域創生の実践に関する諸課題への的確な対応や、三重大学における教育研究、各市町における地域振興に資するプロジェクトについては、オール三重大学のもと、より厚い連携・協力によって責任を持って実施していきます。



共同研究

民間等との共同研究や受託研究に加えて、学部・研究科を超えた学際的共同研究、国内大学間共同研究、国際的な共同研究など三重大学の研究の特色を生かした幅広い共同研究が行われています。特に地方公共団体や地域企業との共同研究は活発に行われ、地域中小企業との共同研究においては全国上位の実績を挙げており、地域の発展に大きく貢献しています。地域イノベーション推進機構(株)三重ティーエルオーが、各部署と連携して、大学の持つ研究シーズと民間企業等のニーズのマッチングによる共同研究を推進しています。

外部資金

外部資金(共同・受託・寄附・科研)

共同研究

| 区分 | H28年度 | H29年度 | H30年度 |
|----------|---------|---------|---------|
| 人文 | 2,346 | 2,736 | 3,490 |
| 教育 | 33,351 | 2,752 | 3,792 |
| 医学・病院 | 228,412 | 203,487 | 285,740 |
| 工学 | 82,428 | 93,880 | 95,223 |
| 生物資源 | 57,317 | 47,387 | 77,652 |
| 地域イノベ | 18,160 | 17,298 | 26,044 |
| その他センター等 | 6,418 | 15,471 | 11,566 |
| 合計 | 428,433 | 383,011 | 503,506 |

受託研究(受託事業含む)

| 区分 | H28年度 | H29年度 | H30年度 |
|----------|---------|---------|---------|
| 人文 | 2,696 | 3,409 | 2,580 |
| 教育 | 18,735 | 15,220 | 18,315 |
| 医学・病院 | 524,303 | 551,139 | 644,198 |
| 工学 | 161,621 | 62,968 | 100,898 |
| 生物資源 | 96,965 | 89,818 | 94,023 |
| 地域イノベ | 24,605 | 89,308 | 41,862 |
| その他センター等 | 51,185 | 40,100 | 31,426 |
| 合計 | 880,110 | 851,962 | 933,302 |

科研・厚労科研

| 区分 | H28年度 | H29年度 | H30年度 |
|----------|---------|---------|---------|
| 人文 | 29,691 | 28,258 | 41,210 |
| 教育 | 51,645 | 55,665 | 63,310 |
| 医学・病院 | 392,553 | 335,842 | 389,342 |
| 工学 | 147,400 | 132,120 | 124,410 |
| 生物資源 | 103,049 | 129,378 | 133,648 |
| 地域イノベ | 40,305 | 52,795 | 43,760 |
| その他センター等 | 45,871 | 32,238 | 38,909 |
| 合計 | 810,514 | 766,296 | 834,589 |

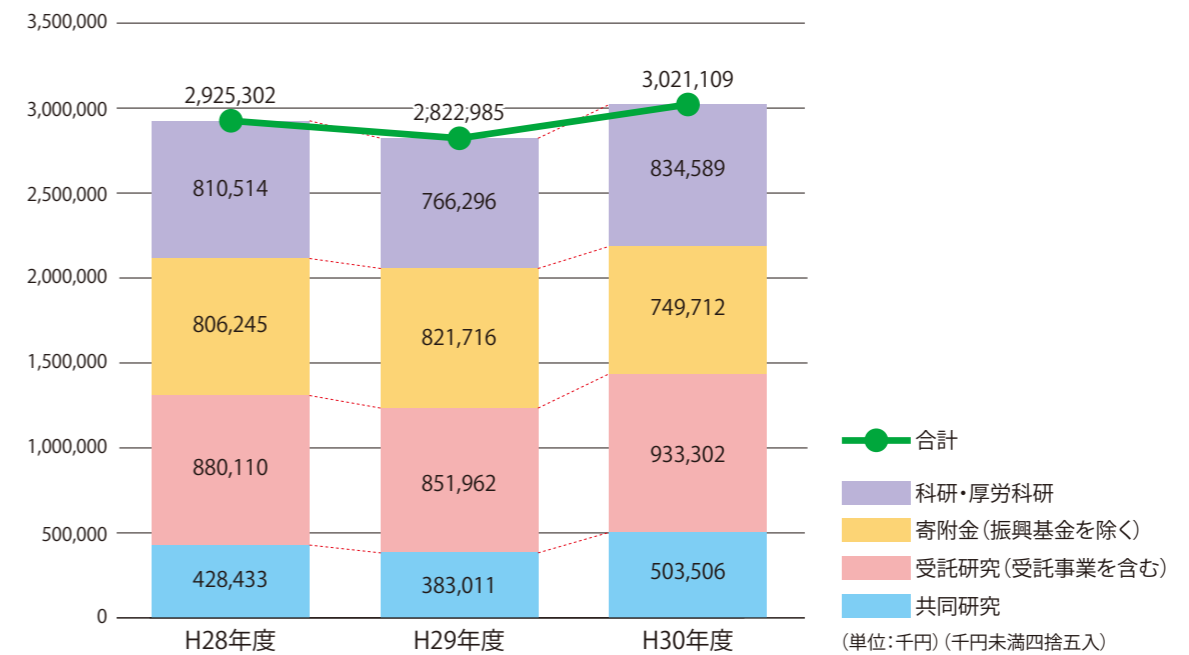
寄附金(振興基金を除く)

| 区分 | H28年度 | H29年度 | H30年度 |
|----------|---------|---------|---------|
| 人文 | 100 | 200 | 600 |
| 教育 | 4,200 | 6,650 | 2,300 |
| 医学・病院 | 648,121 | 697,206 | 624,483 |
| 工学 | 59,127 | 44,964 | 54,031 |
| 生物資源 | 37,160 | 39,784 | 41,182 |
| 地域イノベ | 16,394 | 3,000 | 3,587 |
| その他センター等 | 41,143 | 29,912 | 23,529 |
| 合計 | 806,245 | 821,716 | 749,712 |

合計

| 区分 | H28年度 | H29年度 | H30年度 |
|----|-----------|-----------|-----------|
| 合計 | 2,925,302 | 2,822,985 | 3,021,109 |

四捨五入の関係で合計金額が合わない場合がある。



三重大学地域拠点サテライト

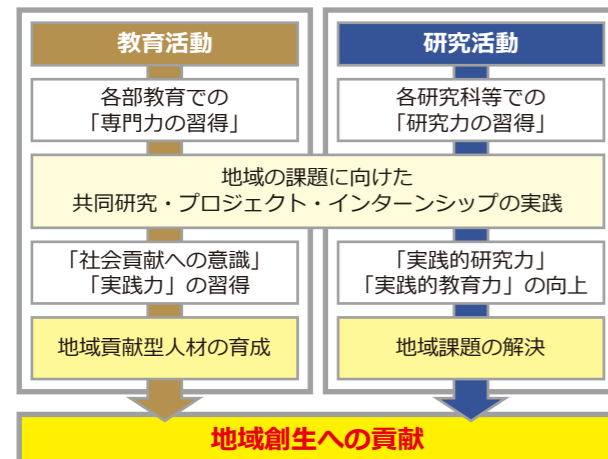
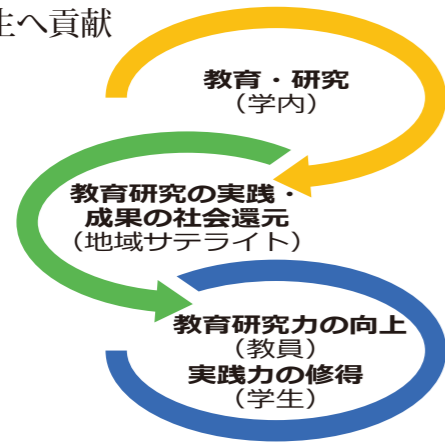
概要

地域拠点サテライト構想は、三重大学の教育研究成果を活用して地域創生に資することを目的とするもので、様々な活動を展開するうえで三重県全体を教育研究フィールドと位置づけています。活動の場となるフィールドは、それぞれの特性に応じた具体的な活動を展開するため、三重県内を地域の特性に合わせて区分し、各地域には自治体施設を活用した「地域サテライト」を設置します。

平成28年度からスタートした「三重大学地域拠点サテライト構想」は、4つの地域サテライトが「地域課題の解決」と「地域人材の養成」に関するハブ機能となって実践的な活動を展開し、三重県地域における地域創生と地域人材の育成に取り組む戦略的機能です。

目的

教育研究機能の強化を通じた
地域創生へ貢献



4つの地域サテライト



地域拠点サテライトのHPIはこちらから

地域の課題・特性に応じた
社会還元・実践的な教育研究力向上

伊賀連携フィールド・国際忍者研究センター
(伊賀市:ハイトピア伊賀)

伊賀研究拠点
(伊賀市:ゆめテクノ伊賀)



伊賀サテライト

Iga Regional Satellite

- **担当エリア**
名張市、伊賀市
- **伊賀サテライトの目標(旗)**
固有文化と地域資源の活用で地域再生に寄与する拠点
- **具体的活動内容**
忍者等の歴史・文化、医薬品企業との連携、森林資源の活用等

東紀州サテライト

Higashi-Kishu Regional Satellite

- **担当エリア**
尾鷲市、熊野市、大台町、大紀町、紀北町、御浜町、紀宝町
- **東紀州サテライトの目標(旗)**
地域資源で富を生み力強い子供が育つことを支える拠点
- **具体的活動内容**
へき地教育、水産増養殖・加工業との連携、森林資源や観光資源の活用等

知的イノベーション研究センター
(四日市市:ユマニテックプラザ)

北勢サテライト

Hokusei Regional Satellite

- **担当エリア**
四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、木曽岬町、東員町、菟野町、朝日町、川越町
- **北勢サテライトの目標(旗)**
日本のモノづくりの真髄を体感し富を生み出す拠点
- **具体的活動内容**
自動車、石油化学、食品化学企業等との産学連携事業、企業人材のリカレント教育、モノづくり企業との連携による学生・若手教員の育成等



海女研究センター
(鳥羽市:海の博物館)

伊勢志摩サテライト

Ise-Shima Regional Satellite

- **担当エリア**
伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、南伊勢町
- **伊勢志摩サテライトの目標(旗)**
歴史ある自然との共生・共存の思想を世界に発信する拠点
- **具体的活動内容**
食と観光産業による地域創生の研究(歴史文化の交流、海女文化、水産資源の活性化、食品の6次産業化、観光資源の活用など)、地域人材の育成等



東紀州産業振興学舎
(尾鷲市:天満荘)

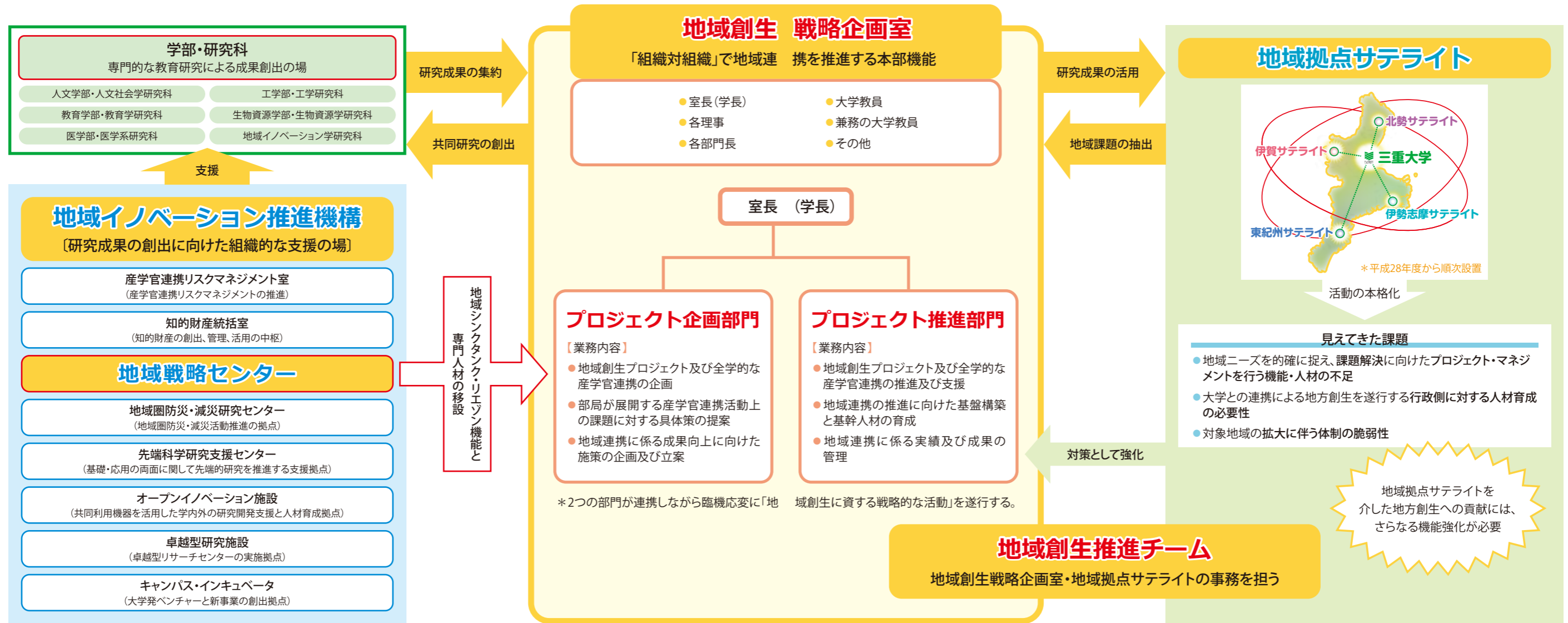
東紀州教育学舎
(熊野市:木本高校敷地内)



地域創生戦略企画室

地域創生戦略企画室とは

三重大学では、平成30年4月から、地域創生の推進を行うプロジェクトを全学を総合的に見ながら組み上げ、本学の研究力・教育力を深化させることを目的に「地域創生戦略企画室」を設置しました。



※リエゾン機能：企業ニーズと大学の研究シーズのマッチングを行い、産学連携による共同研究を実現させるための支援機能

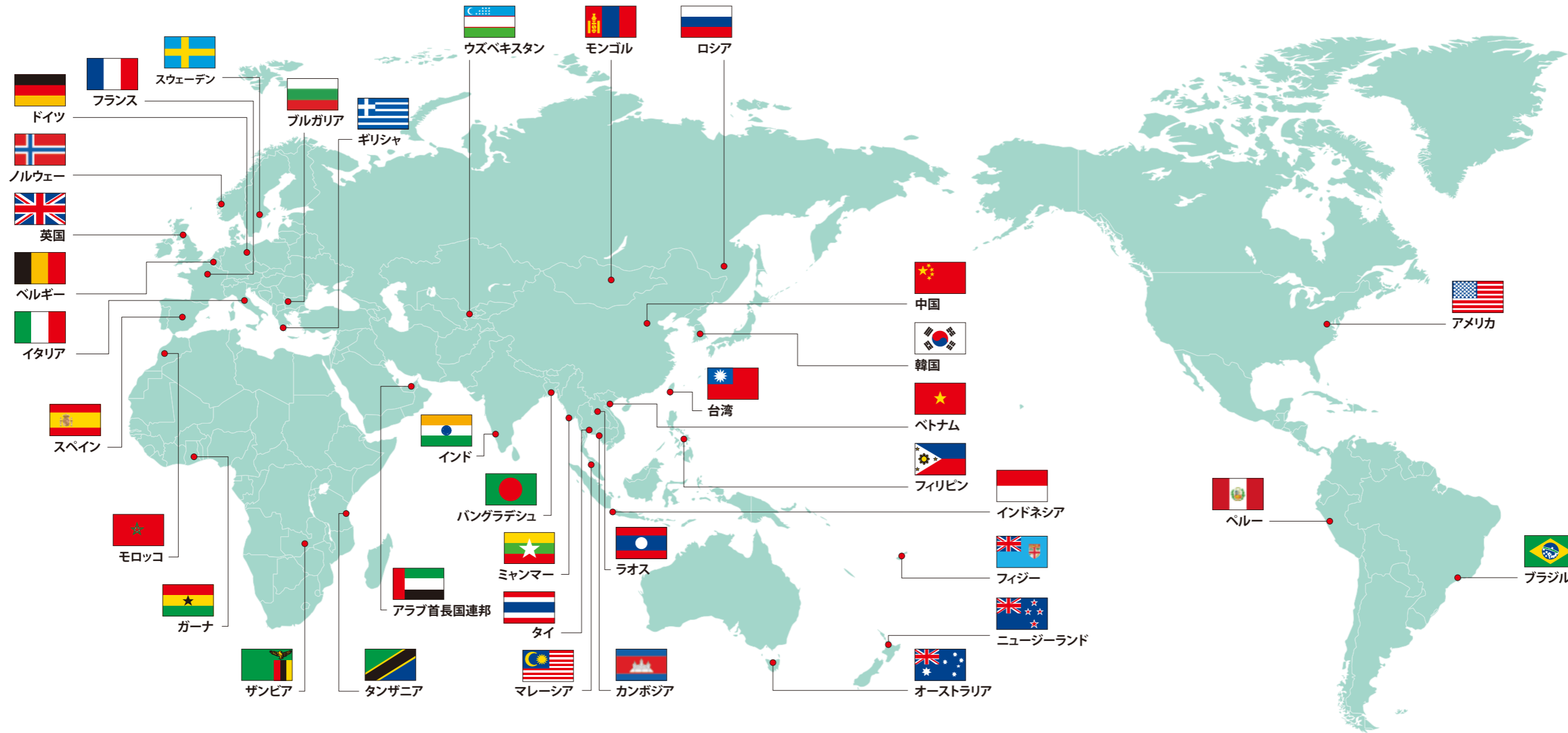
地域創生戦略企画室の主な業務は「プロジェクトマネジメント機能・体制の強化」「基幹人材の育成・蓄積」「地域創生に資する本部機能の整備」です。

駒田美弘学長が室長を務め、どの学部にも属さず、学長・理事の経営責任に基づく判断の下で運営されます。また、「プロジェクト企画部門」、「プロジェクト推進部門」の2つの機能・部門を持ち、それぞれ社会連携担当の西村訓弘副学長、地域創生担当の松田裕子副学長が部門長を務めます。

企画部門は地域創生プロジェクトの起案、具現化、組み上げを担当し、推進部門は各部局・機構と連携し、プロジェクト遂行を支援、あるいはプロジェクトの企画・構築・実施を活用した学内外への基幹人材の育成を担当しています。

従来、地域イノベーション推進機構にあった地域戦略センターをすべての教職員とともに地域創生戦略企画室へ移し、また事務組織としては地域創生推進チームを新設し、地域創生戦略企画室と地域拠点サテライトの事務を担います。

学生が参加しやすい新たな海外留学プログラムや留学生受入プログラムを提供し、海外留学と留学生の受入れを促進しています。また、キャンパス内で日本人学生と留学生との相互交流による国際体験ができるような環境を目指しています。



大学間協定
締結校
63校

学部間協定
締結校
53校

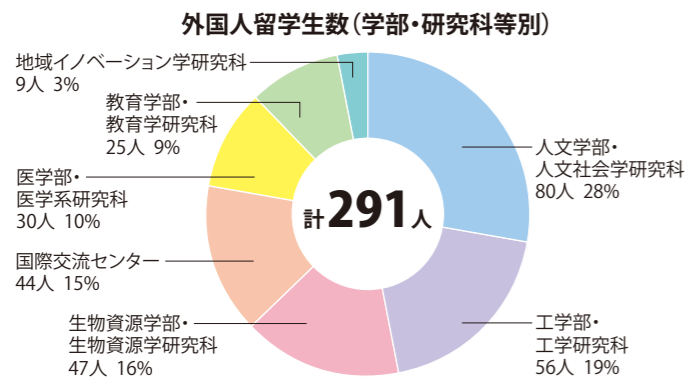
留学生
30ヶ国・地域
から
291名
(2019.5.1)

海外
留学・研修
学生数
425名
(2018年度)

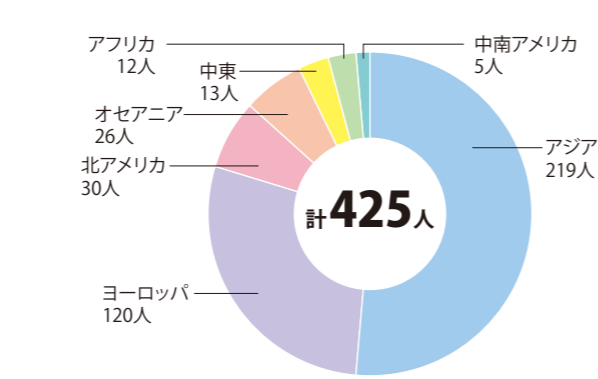


国際交流のHPはこちらから ↓

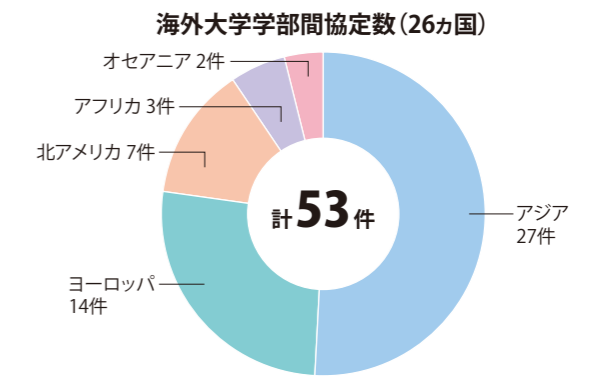
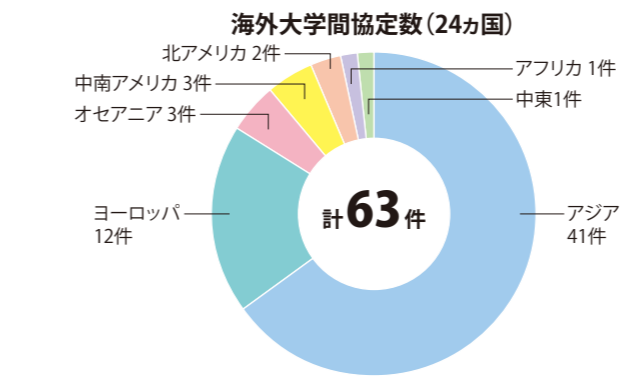
外国人留学生数 (令和元年5月1日現在)



海外留学・研修学生数 (平成30年度)



国際交流状況 (令和元年5月1日現在)



Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウム

Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウムは、三重大学(日本)、チェンマイ大学(タイ)、江蘇大学(中国)の3大学が交代でホスト校をつとめ毎年開催している国際交流を兼ねた英語による研究発表会で持続可能な社会の実現を目的としています。2011年度よりボゴール農科大学(インドネシア)、2018年度には廣西大学(中国)が新たなホスト校として加わり、現在は5大学がホスト校をつとめています。2019年アジアの13大学が江蘇大学に集まり、参加者は英語で研究発表やワークショップを行いました。2020年度は、第27回Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウムが廣西大学(中国)で開催されます。



2019 Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウム

天津師範大学とのコンセクティブディグリープログラム(接続学位制度)

三重大学は天津師範大学との協定に基づき、2009年4月から受け入れてきたダブルディグリープログラムの後継としてコンセクティブディグリープログラム(接続学位制度)を2019年4月から実施しています。

このプログラムは、天津師範大学の国際教育交流学部の3年生の学生20名(従来のダブルディグリー制度の学生)を、1年間三重大学に留学した後帰国して卒業し、さらに優秀な学生については一般入試を受け、合格者は三重大学大学院に10月または翌年4月に進学するというプログラムです。

高い日本語レベルと国際感覚を備えたグローバルな人材を育成します。

ミッション

- 1 高いレベルの日本語を習得
- 2 専門知識の習得
- 3 キャンパスの国際化



留学生研修旅行(2019年5月)

ダブルディグリープログラム(複数学位制度)

三重大学は海外の大学と学位授与に関する協定を結び、両大学の学生が双方の大学に在籍し、必要な単位を取得するダブルディグリープログラムを、大学院レベルでスリウィジャヤ大学及びパジャジャラン大学(インドネシア)との間にて実施しています。

国際感覚、広い視野と専門知識を備えたグローバルな人材を育成します。

ミッション

- 1 双方の大学の学位を修得
- 2 異文化体験を通じて国際感覚を養う
- 3 海外体験を通じて実践的な語学能力の向上
- 4 キャンパスの国際化を加速

教育・研究活動を通じた国際貢献

三重大学では「三重の力を世界へ」のモットーの下、アジア・アフリカをはじめとする開発途上国の発展に資する国際貢献事業にも積極的に取り組んでいます。これまで延べ132名の三重大学教員が国際協力機構(JICA)専門家として開発途上国に派遣されている他、アフガニスタン、アフリカ諸国、太平洋諸国からの留学生の受入事業や、フィジー共和国での離島開発支援、モザンビークでの技術支援等の国際協力プロジェクトを実施しています。

国際キャリアアッププログラム

国際交流センターでは「国際キャリアアッププログラム」と総称して、(1)英語による授業と(2)海外短期研修プログラムを実施しています。三重大学の学生であれば留学生を含めて誰でも受講および参加することができ、海外の大学へ留学を希望する学生に推奨しています。

ブリティッシュ・コロンビア大学夏期英語研修(カナダ)

参加者は世界的な名門大学であるUBCのキャンパス内にある語学学校で英語力を向上させ、国際的視野を養います。期間は約3週間で、滞在はホスト・ファミリー宅です。授業では「書く、読む、聞く、話す」の4技能を学び、学生の習得状況に応じてディベート、プレゼンテーション、異文化交流、Global規模の問題等に取り組む授業が行われます。夏の平均気温は約15度で、美しい自然と多文化で活気のある都市の生活を体験できます。



タチ大学英語研修(マレーシア)

タチ大学は三重大学の協定校で、2017年度より約3週間の英語研修を夏休み期間(8月)と春休み期間(3月)に実施しています。本プログラムでは、タチ大学生との混合クラスによる英語授業が行われ、現地学生と一緒にグループワークやディスカッションを行います。様々な課外活動もあり、タチ大学の学生や教員との交流を通して実践的な英語力の習得と異文化への興味と理解を有する国際的な人間性の育成を目指します。



三重大学主催の海外研修プログラム

| | プログラム名 | 研修場所 | 国名 |
|----------|-------------------------------|---------------------------------------|---------------------|
| 全学対象 | Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウム | 三重大学、チェンマイ大学、江蘇大学、ボゴール農科大学、廣西大学で交代で開催 | 日本、タイ、中国、インドネシア |
| | アメリカ文化・英語研修 | サウスカロライナ大学 | 米国 |
| | 春期語学研修 | ポートランド州立大学 | 米国 |
| | タチ大学夏期英語研修(8月)・タチ大学春期英語研修(3月) | タチ大学 | マレーシア |
| | サマースクール(語学研修・水産実習) | マレーシアアレンガヌ大学 | マレーシア |
| | ベトナム・フィールドスタディ | ホーチミン市師範大学 | ベトナム |
| | ブリティッシュ・コロンビア大学夏期語学研修 | ブリティッシュ・コロンビア大学 | カナダ |
| | タイ文化研修 | タマサート大学 | タイ |
| | ドイツ文化研修 | ハイデルベルク大学 他 | ドイツ |
| | 中国文化研修 | 天津師範大学 | 中国 |
| 教養教育院各部署 | 英語特別プログラム海外短期研修(教養教育院) | シェフィールド大学 英語教育センター | イギリス |
| | オックスフォード大学夏期英語研修(人文学部) | オックスフォード大学 ハートフォードカレッジ | イギリス |
| | 海外教育研修(教育学部) | オークランド大学教育学部 | ニュージーランド |
| | 海外臨床実習、早期海外体験実習(医学部・医学系研究科) | チェンマイ大学、フライブルク応用科学カトリック大学等 | タイ、ドイツ他 |
| | 海外短期インターンシップ(工学部・工学研究科) | 海外の日本企業 | マレーシア、タイ、フィリピン、ベトナム |

*2019年度実施の海外研修プログラムです。年度によりプログラム内容が異なる場合があります。

三重大学国際交流奨学制度

三重大学では学業成績が優秀な学生に対して、海外留学、本学が実施する国際交流事業への参加、海外協定校からの短期留学及びダブルディグリープログラムによる派遣など充実した三重大学国際交流特別奨学生制度(20名)を設けています。また、海外から優秀な大学院留学生を安定的に確保することを目的とした「三重大学私費外国人特待留学生制度」により12名を採用するなど、留学しやすい環境を整えています。そのほか、私費留学生がより良い環境で研究・学習に集中できるよう、「三重大学三重県民共済奨学金(6名採用)」をはじめとした民間からの奨学金も充実しています。

環境活動

「環境先進大学」を標榜する三重大学は、「三翠(空・樹・波のみどり)と自然が調和・共生する潤いのあるキャンパス環境の創出」を中期目標の一つとして掲げております。また、本学は地域活性化の中核的拠点となることを志向して、USR(大学としての社会的責任)を果たすべく地域の方々との連携を重視した様々な施策を計画し、それを実践しております。

SciLets 三重大学『科学的地域環境人材』育成事業は 全国・世界に広がる環境保全・地域振興の仕組みです。

SciLets = Scientific, Local and Environmental “Talented Staff”

地域環境の保全と、地域に多く賦存する環境価値の活用による地域活性化を目的とし、「ビデオ講義による資格認定」「異分野・異業種交流」「共同研究」などを通じて「科学的地域環境人材」を育成します。

このような方・
団体におすすめです

- 環境保全に興味があり、地域を環境価値・環境科学により振興したい方
- 環境担当者の専門教育を行いたい企業や自治体
- 環境担当者の初任者教育をOn the job Trainingにより行いたい企業や自治体

資格認定について ～「科学的地域環境人材」育成のための「講義／研究交流」～

SciLetsビデオ講義または関連の大学講義を受講することにより、アナリスト資格・エキスパート資格の認定を取得することができます。*エキスパート資格については環境教育要件(講義受講)以外に環境実践要件を満たす必要があります。

環境専門職に従事できる人材を育成
アナリスト資格を目指す方

環境企画や政策を立案できるエキスパートを育成
エキスパート資格を目指す方

環境教育要件(アナリストコース・エキスパートコース共通)

必修科目

基本の10分野をカバーする
「地域環境科学概論」
(ビデオ講義 1講義 1.5時間 × 10講義 = 15時間)

受講料
14,000
円

選択科目

4科目を選択
(ビデオ講義 1講義 1.5時間 × 4講義 = 6時間)

*修業年数に制限はありません。また、ご希望があれば5科目以上の選択科目を受講することもできます。[受講料] 1,000円 / 1講義
*受講者は、受講中も資格取得後も専用ソーシャルネットワークSciLetsを利用(無料)することができ、地域の環境保全・地域振興に貢献していくことができます。

実践を通して
必要なスキルを身に
付けます!

環境実践要件

共同研究、異分野・異業種交流(研究交流)等のOn the Job Trainingを通じ、地域企業や行政等で環境企画や政策を立案できるエキスパートとなり得る知識を身につけます。

アナリスト資格認定

エキスパート資格認定

「THE大学インパクトランキング2019」のSDG12(つくる責任つかう責任)において 日本国内で1位、世界で31位にランクインしました

イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education (THE)」が2019年4月3日に発表した「THE大学インパクトランキング2019」のSDG12(つくる責任つかう責任)において、三重大学が日本国内で1位、世界で31位にランクインしました。

同ランキングはSDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)の枠組みを通して大学の社会貢献度をランキングするもので、SDGsのうち、THEが大学との関係性から選択した11の開発目標についてランキングされています。このランキングは今回が初めての発表となり、世界から560大学がデータを提出しています。

本学は同ランキングの総合ランキング及びSDG別ランキングで10の開発目標についてランクインしました。本学はアカデミック・インパクトにも参加しており、これからもSDGsの取組を推進していきます。



MIEUポイント

本学における環境活動を評価する取り組みとして、学生・教職員が行った省エネ活動や清掃活動などの個人における環境活動の見える化やインセンティブ制度である、MIEUポイントを導入しています。

省エネ等の環境活動をスマートフォンなどの携帯端末を用いて登録することで、ポイントを付与し、獲得ポイントに応じて、学生生活に必要な品物と交換することができます。

このMIEUポイントにより、自発的な行動を促すとともに、持続的な環境活動を促進します。



環境ISO学生委員会の活動

三重大学環境ISO学生委員会は、平成18年2月21日に「MIEキャンパス宣言」を掲げ、学生の環境マインド向上を活動理念として発足しました。

当委員会は、学内ではごみ減量化活動や家具・家電製品の再利用、古紙再生利用、放置自転車の再利用といった3R活動(リデュース・リユース・リサイクル)や、環境・情報科学館の屋上緑化や緑のカーテンづくり、花壇の整備などの緑化活動に取り組んでいます。また、学外では海岸清掃や小学校での環境学習を通して地域を巻き込んだ環境活動を展開しており、そのほかにも三重県内の環境イベントに積極的に参加し、幅広い年代の人々に環境について触れてもらう機会を提供しています。今後も大学組織や地域の方々との連携しながら、世界に誇れる「環境先進大学」を目指して積極的な環境活動を行ってまいります。



留学生自転車譲渡式



緑のカーテン



海岸清掃



基本理念

信頼と安心が得られる

地域医療の拠点として、

未来を拓く診療・研究を推進し、

人間性豊かな優れた医療人を

育成する

基本方針

- 地域の拠点病院として、安全で質の高い先進的な医療を提供します。
- 臨床研修機関として、次代の担い手となる人間性豊かな人材を育成します。
- 新しい医療を目指す臨床研究を推進し、社会に貢献します。
- 医療・医育機関との連携・支援を推進し、地域医療の発展に尽くします。
- 疾病の予防を目指した教育・研究を推進します。
- 上記の基本方針を推進するために、健全で成長性のある病院経営を行います。

本院について

本院は、三重大学キャンパスで、2代目となる新病棟が2012年、新外来棟が2015年に稼働し、2018年春には駐車場・外観工事も終了して、ここに新しい「三重大学医学部附属病院」が完成しました。“最先端医療が安全に受けられる患者様中心の病院”を基本コンセプトに、高度医療、先進医療を、心の安らぎ・癒しと共に提供できる病院環境を構築しております。新病院の完成により、臓器別診療体制、診療科横断的なセンター機能が強化され、診療面での質的ならびに量的にパワーアップが図られ、大学病院の使命である研究、教育、地域貢献ならびに国際化の活動において、今後大きく飛躍できる基盤が整備されたこととなります。

診療においては三重県唯一の特定機能病院(高難度手術や先端医療を提供できる医療機関として厚生労働省に承認を受けた医療機関)として、高度急性期・急性期医療に携わり、三重県の医療における最後の砦として県民、市民の皆様のご期待に沿えるよう努力して参ります。

がんセンターのない三重県において、県下の病院と密接なネットワークを構築し、最新かつ先進的ながん診断・治療を行える「がん診療連携拠点病院」、「小児がん拠点病院」としての活動を進めて参ります。また、個々のがん患者に最適な医療を提供するため、がんゲノム医療を牽引する高度な機能を有する医療機関を目指しています。

救命救急センターの機能強化やドクターヘリによる救急医療をより活発にし、3次救急のみならず、2次医療圏にもさらに救急診療活動範囲を広げ、生活習慣病、循環器系疾患に対しても、迅速にレベルの高い医療を行える病院として、診療機能を高めています。

中央手術部には、各診療科が行う高度先端医療に対応するために、「ハイブリッド手術室」を完備しています。また、臓器移植(腎移植・肝移植など)、新生児手術(複雑心奇型も含む)、ロボット補助下内視鏡手術(ダビンチ:現在2台が稼働)、腹腔鏡・胸腔鏡などの鏡視下手術、センチネルリンパ節ナビゲーション手術から、日帰り手術まで幅広い手術に対応しています。

2017年より形成外科やリウマチ・膠原病センターの診療活動も開始し、2019年度はリハビリテーション部の充実と、痛みに関連した病気に悩んでいる患者さんを総合的に診断し治療する「痛みセンター」も開設予定であり、社会のニーズである質の高い臨床研究、国際医療や災害医療に関する活動推進も行っています。

病院概要

病床数

- 685床
- 一般 655床
 - 精神 30床

職員数

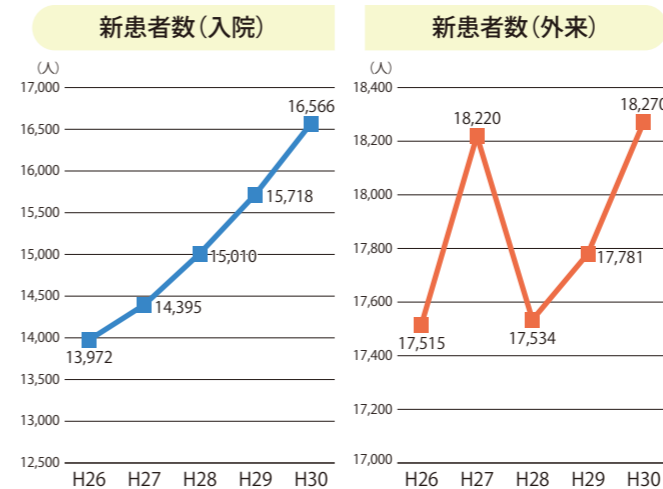
- 1,869人
- 医師・歯科医師 518人(医員・研修医含む)
 - 看護師 737人
 - 技師等 243人
 - 事務系職員 246人
 - その他 125人

指定状況等

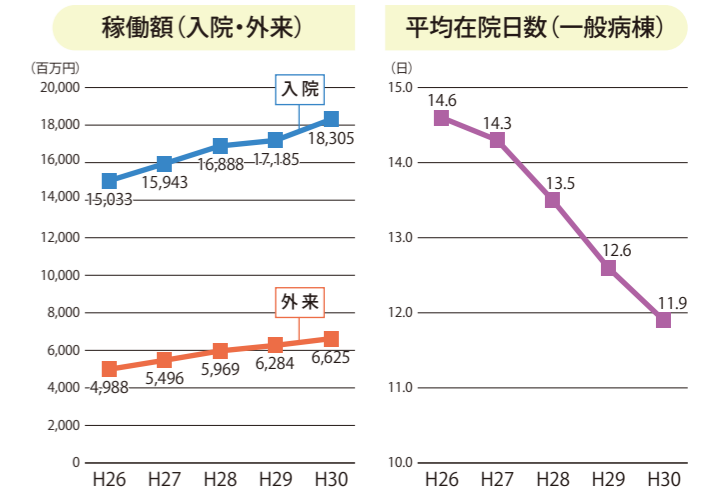
- エイズ治療拠点病院
- 地域災害拠点病院
- 三重県アレルギー疾患拠点病院
- 肝疾患診療連携拠点病院
- 小児がん拠点病院
- がん診療連携拠点病院 など

経営状況

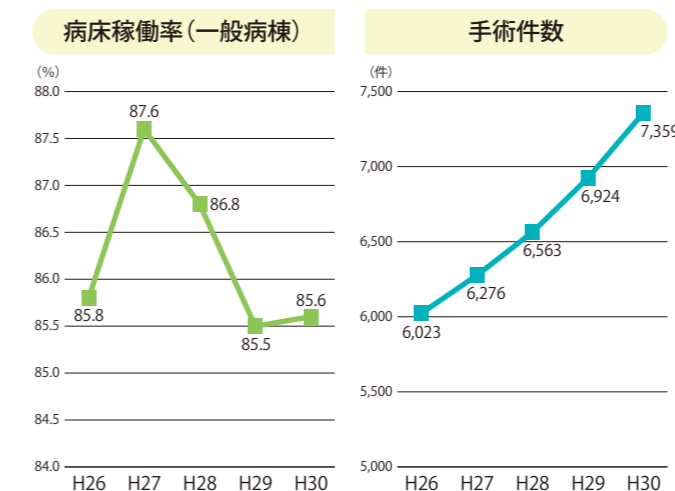
新患者数推移



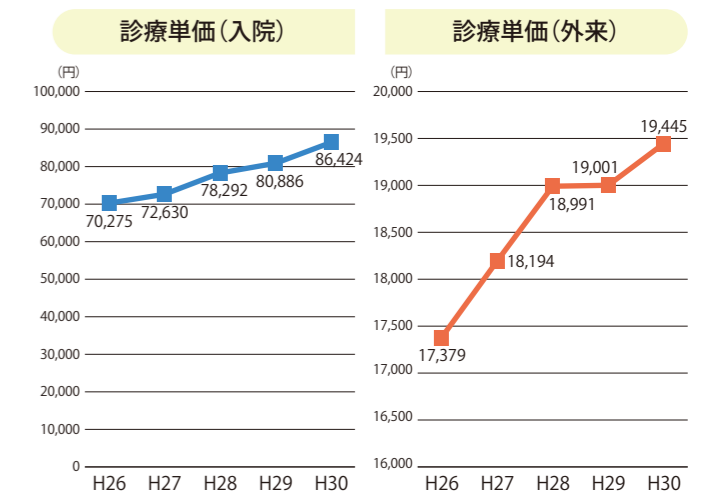
稼働額及び平均在院日数



病床稼働率及び手術件数



診療単価

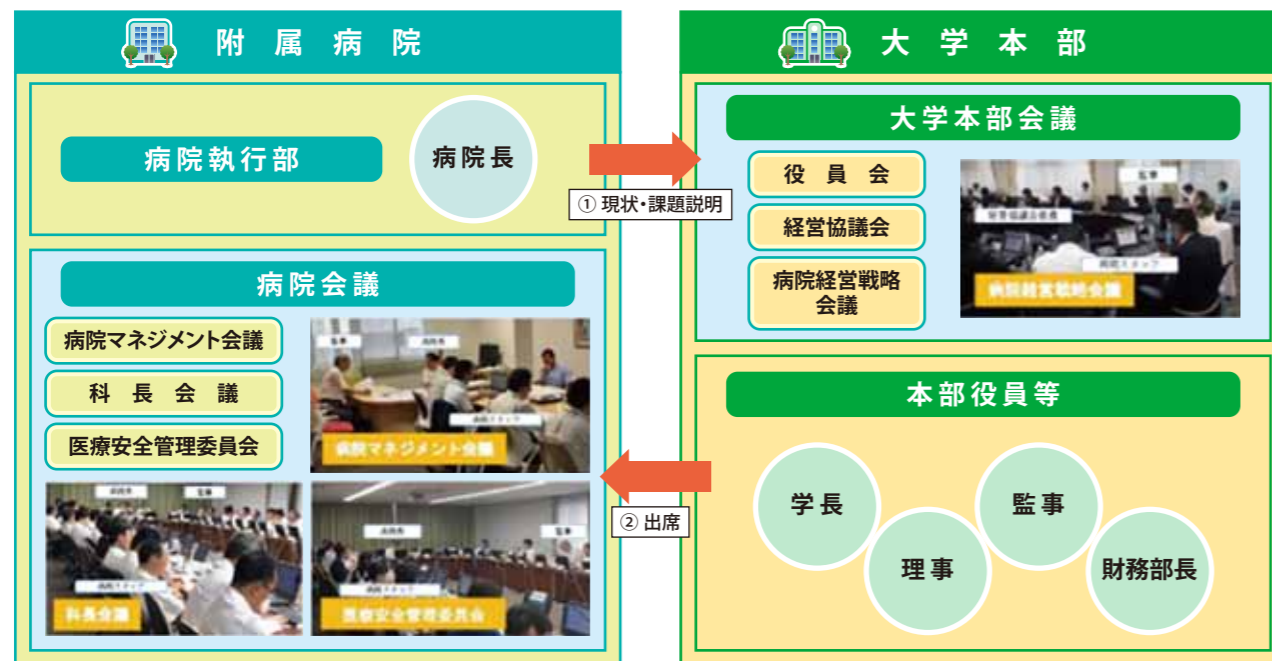


特色ある取組み等

本部との連携

法人本部と附属病院が同一キャンパス内にあるため、高い連携力を発揮

- ➔ 病院開催のマネジメント会議や科長会議等に学長・理事・監事等が定期的に出席し、病院経営や医療安全等の情報を共有。
- ➔ 役員会において病院の状況説明を病院長が実施している(月1回)
- ➔ 病院の収支状況説明のため、経営管理課長が事務局財務部に毎月報告を行っている。
- ➔ 毎年、学長を議長とする「病院経営戦略会議」を実施し、大学執行部や経営協議会委員を含む外部委員と病院執行部で意見交換を行う(年1回)



三重県内初の手術支援ロボット(ダ・ヴィンチ)の導入

2014年11月に三重県内では初となる手術支援ロボット(ダ・ヴィンチ)を導入し、現在では2台の「手術支援ロボット(ダ・ヴィンチ)」を稼働し、県内随一の実績を有している。

ダ・ヴィンチで治療開始以降の手術件数(2019年3月まで)

| 前立腺がん | 腎がん | 食道がん | 胃がん | 肺がん | 縦隔腫瘍 | 子宮体部がん | 子宮全摘術を行う婦人科 良性疾患 |
|-------|-----|------|-----|-----|------|--------|---------------------|
| 198 | 46 | 5 | 16 | 2 | 2 | 24 | 21 |



地域への貢献

地域医療

三重大学病院は、がんをはじめとした地域連携クリニカルパスの円滑な運用及び県内における安心・安全かつ切れ目のない医療情報体制の充実を目指すことを目的に、ネットワーク回線を用いた医療連携システム、三重医療安心ネットワーク(ID LINK)を2010年より導入しております。導入当初は県内の拠点病院である三重大学医学部附属病院(県がん診療連携拠点病院)、三重中央医療センター(県がん診療連携準拠点病院)、鈴鹿中央総合病院、松阪中央総合病院(地域がん診療連携拠点病院)、済生会松阪総合病院(県がん診療連携病院)の6施設を、個人情報保護し、患者様から同意を得た上で検査・処方データ、画像データ、各種レポートなどの診療情報を連携かかりつけ医療機関と共有できるようにサーバーを通じて開示することができる医療情報開示施設として開始しましたが、現在(2019年3月末現在)では、開示病院18施設、登録施設324施設、閲覧施設275施設、全登録件数19,610件にまで運用を拡大し、幅広く診療連携に活用されております。



三重大学の平成30事業年度決算概要

国立大学法人は、「国立大学法人会計基準」に基づいて毎年度財務諸表を作成し、財務状況や運営状況などの財務情報を公表しています。

貸借対照表(B/S) (平成31年3月31日)

貸借対照表は、年度末(3月31日)時点の大学の財政状況(資産、負債及び純資産の状況)を表します。

| 主な増減要因等 | H29 | | | H30 | | | 増減 | H29 | | | H30 | | | 増減 | 主な増減要因等 |
|--|------------|---------|---------|---------|------------|---------|--------|---------|----------|--------|--------|---------|--|----|---------|
| | 資産の部 | | | 負債の部 | | | | 純資産の部 | | | | | | | |
| 貸見宿舍を使用しないこととなり、敷地の資産価値が減少。 | 固定資産 A | | | 65,310 | 62,925 | △ 2,385 | 固定負債 D | | | 35,961 | 34,085 | △ 1,875 | 運用費交付金や授業料等の財源で償却資産を取得した場合、その償却期間中は固定負債として取り扱い、資産見返負債として計上。その後毎年度、減価償却相当額を収益に計上。 | | |
| 既取得資産の使用年数経過に伴う、資産価値の減少(減価償却)。 ・取得した主な資産 基幹・環境整備(ブロック塀対策) 13百万円 他 | 土地 | 11,976 | 11,933 | △ 42 | 資産見返負債 | 8,314 | 7,928 | △ 386 | 借入金 | 25,485 | 24,022 | △ 1,463 | 1年以内に返済予定(R1年度返済予定)の金額を流動負債の借入金への振替による減少。 | | |
| 既取得資産の使用年数経過に伴う、資産価値の減少(減価償却)。 ・取得した主な資産 放射線部門診断システムの購入(550百万円借入金) | 建物等 | 40,391 | 37,919 | △ 2,471 | 借入金 | 2,049 | 2,024 | △ 24 | 未払金 | 3,762 | 4,307 | 545 | H30年度の受託研究等の金額を負債に計上し、使用に応じて収益に振り替える。残高は未使用分となる。 ・30年度 増加額:1,749百万円 収益額:1,520百万円 | | |
| 本年度に完了しない工事の前払金を計上。 ・教職支援センター改修工事 117百万円 | 機械備品(船舶含む) | 6,422 | 6,119 | △ 303 | 流動負債 E | 10,820 | 11,797 | 977 | その他 | 787 | 921 | 134 | 事業年度を越えた支払いとなる物件費等の未払金の増加。 ・主なもの 放射線部門診断システム 550百万円 | | |
| 投資有価証券の増加。 | 図書 | 4,012 | 4,019 | 7 | 運賃費交付金債務※1 | 12 | 70 | 58 | 資本金 | 17,485 | 17,485 | 0 | 減価償却による減少。 施設費や目的積立金で取得した資産は、大学の財産的基礎を形成するものとして、純資産の資本剰余金へ計上され、その後減価償却費も資本剰余金を減少させる会計処理を行う。 | | |
| ・事業年度を越えた支払いとなる物件費等の未払金の増加 550百万円 ・受託研究等受入の増加 200百万円 | 美術品・收藏品 | 22 | 22 | 0 | 寄附金債務※1 | 3,429 | 3,464 | 35 | 資本剰余金 | 10,970 | 9,574 | △ 1,395 | | | |
| | 車両運搬具 | 29 | 21 | △ 7 | 前受受託研究費等 | 779 | 1,008 | 229 | 利益剰余金 | 1,947 | 3,228 | 1,280 | | | |
| | 建設仮勘定 | 2 | 127 | 124 | 借入金 | 2,049 | 2,024 | △ 24 | 未払金 | 3,762 | 4,307 | 545 | | | |
| | 無形固定資産 | 121 | 128 | 7 | 未払金 | 3,762 | 4,307 | 545 | 利益剰余金 | 1,947 | 3,228 | 1,280 | | | |
| | 投資その他資産 | 2,333 | 2,633 | 300 | その他 | 787 | 921 | 134 | 純資産 G | 30,403 | 30,287 | △ 115 | | | |
| | 現金・預金 | 6,401 | 7,642 | 1,240 | 負債 F(D+E) | 46,781 | 45,883 | △ 897 | 純資産 G | 30,403 | 30,287 | △ 115 | | | |
| | 未収金 | 5,084 | 5,127 | 43 | 純資産の部 | | | | 資本金 | 17,485 | 17,485 | 0 | | | |
| | (うち附属病院収入) | (4,440) | (4,496) | (56) | 資本金 | 17,485 | 17,485 | 0 | 資本剰余金 | 10,970 | 9,574 | △ 1,395 | | | |
| | (うち受託研究他) | (644) | (631) | (△ 13) | 資本剰余金 | 10,970 | 9,574 | △ 1,395 | 利益剰余金 | 1,947 | 3,228 | 1,280 | | | |
| | その他 | 387 | 475 | 88 | 利益剰余金 | 1,947 | 3,228 | 1,280 | 未払金 | 3,762 | 4,307 | 545 | | | |
| | 合計 C(A+B) | 77,184 | 76,171 | △ 1,013 | 純資産 G | 30,403 | 30,287 | △ 115 | 前受受託研究費等 | 779 | 1,008 | 229 | | | |
| | | | | | 合計 H(F+G) | 77,184 | 76,171 | △ 1,013 | 借入金 | 25,485 | 24,022 | △ 1,463 | | | |

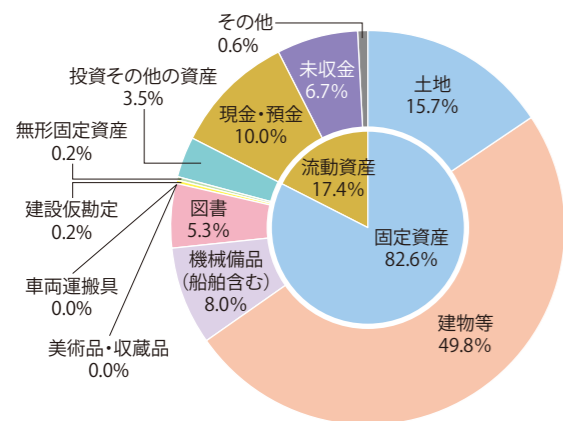
※1: 運賃費交付金や授業料、寄附金は、国や国民等から負託された業務の財源であり、一旦、債務として負債に計上し、業務の進行に応じて、収益化を行う。

損益計算書(P/L) (平成30年4月1日～平成31年3月31日)

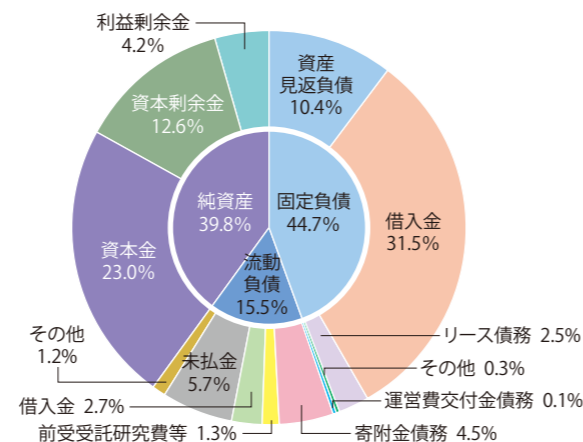
損益計算書は、一事業年度(4月1日～3月31日)における大学の運営状況(費用、収益の発生による損益状況)を表します。

| 主な増減要因等 | H29 | | | H30 | | | 増減 | H29 | | | H30 | | | 増減 | 主な増減要因等 |
|--|--------------------|--------|--------|--------|--------------------|--------|--------|--------------|--------------|--------|--------|-------|---|----|---------|
| | 経常費用 I | | | 経常収益 J | | | | 経常利益 K (J-I) | | | 臨時利益 M | | | | |
| ・建物修繕費の増加 40百万円 ・奨学費の増加 10百万円 ・設備備品保守費の増加 10百万円 | 教育経費 | 1,325 | 1,435 | 109 | 経常費用 I | 42,842 | 43,845 | 1,002 | 経常収益 J | 43,973 | 45,192 | 1,219 | 運用費交付金で償却資産を取得した場合は、その償却期間中は固定負債の資産見返負債へ計上する。その後毎年度、減価償却相当額を収益に計上する会計処理を行う。 | | |
| ・医薬品・医療材料等の増加 670百万円 ・光熱水費の増加 40百万円 | 研究経費 | 1,425 | 1,492 | 67 | 研究経費 | 1,425 | 1,492 | 67 | 運営費交付金収益 | 11,621 | 11,610 | △ 10 | 患者数、診療単価、手術件数の増加。 | | |
| ・退職者の増加による支給額の増加 160百万円 ・看護師等の増員、常勤化 140百万円 | 診療経費 | 16,016 | 16,549 | 533 | 診療経費 | 16,016 | 16,549 | 533 | 授業料等収益 | 4,282 | 4,306 | 23 | H30年度受入額は17.5億円で前年度より2.2億円増加。ただし、執行額を収益化するため、収益額は受入額に比例して増加しない。 | | |
| | 教育研究支援経費 | 415 | 411 | △ 3 | 教育研究支援経費 | 415 | 411 | △ 3 | 附属病院収益 | 23,442 | 24,722 | 1,279 | H30年度受入額は17.5億円で前年度より2.2億円増加。ただし、執行額を収益化するため、収益額は受入額に比例して増加しない。 | | |
| | 受託研究費等 | 1,571 | 1,537 | △ 33 | 受託研究費等 | 1,571 | 1,537 | △ 33 | 受託研究等収益 | 1,551 | 1,520 | △ 31 | 償却資産の減価償却相当額を資産見返負債から振り替えたものや、償却資産を売却、除却した際の全額を振り替えたもの。 | | |
| | 人件費 | 20,629 | 21,046 | 417 | 人件費 | 20,629 | 21,046 | 417 | 寄附金収益 | 750 | 731 | △ 18 | | | |
| | 一般管理費 | 1,138 | 1,097 | △ 40 | 一般管理費 | 1,138 | 1,097 | △ 40 | 補助金等収益 | 759 | 750 | △ 9 | | | |
| | 財務費用 | 320 | 274 | △ 46 | 財務費用 | 320 | 274 | △ 46 | 施設費収益 | 59 | 46 | △ 12 | | | |
| | 経常利益 K (J-I) | 1,130 | 1,347 | 216 | 経常利益 K (J-I) | 1,130 | 1,347 | 216 | 資産見返負債戻入 | 899 | 819 | △ 80 | | | |
| | 臨時損失 L | 368 | 10 | △ 358 | 臨時損失 L | 368 | 10 | △ 358 | 雑益 | 607 | 686 | 78 | | | |
| | 当期利益 O (J+M+N-I-L) | 1,280 | 1,360 | 79 | 当期利益 O (J+M+N-I-L) | 1,280 | 1,360 | 79 | 積立金取崩額 N | 0 | 8 | 8 | | | |
| | 合計 P (I+L+O) | 44,492 | 45,215 | 723 | 合計 P (I+L+O) | 44,492 | 45,215 | 723 | 合計 Q (J+M+N) | 44,492 | 45,215 | 723 | | | |

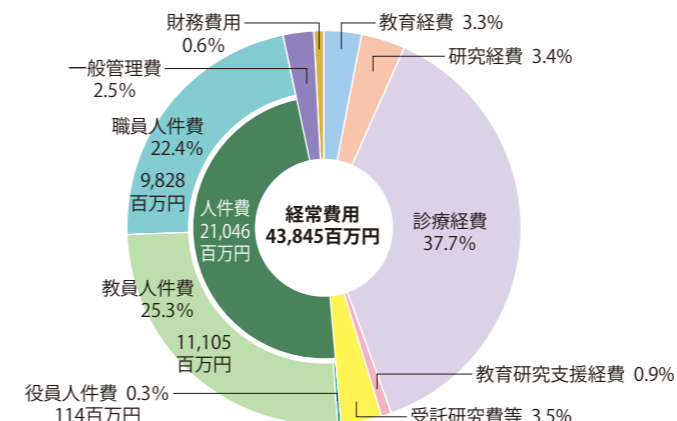
資産合計(76,171百万円)の構成内訳



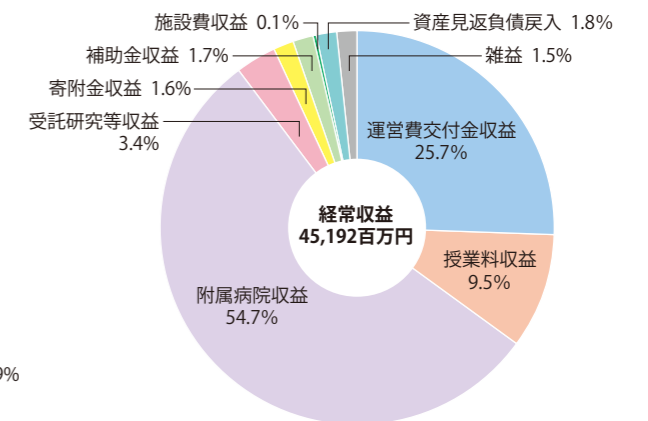
負債・純資産(76,171百万円)の構成内訳



経常費用の構成内訳

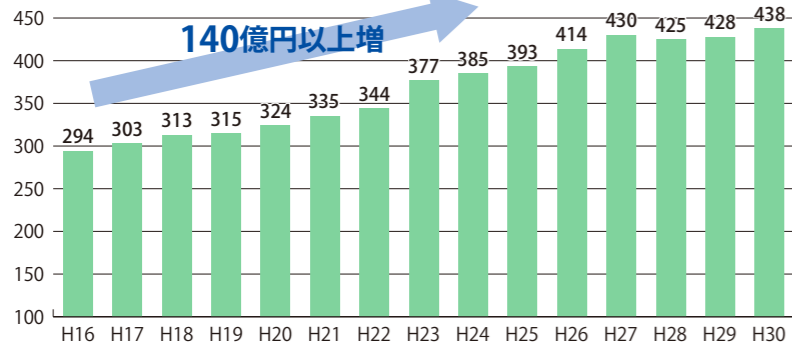


経常収益の構成内訳



経常費用の推移

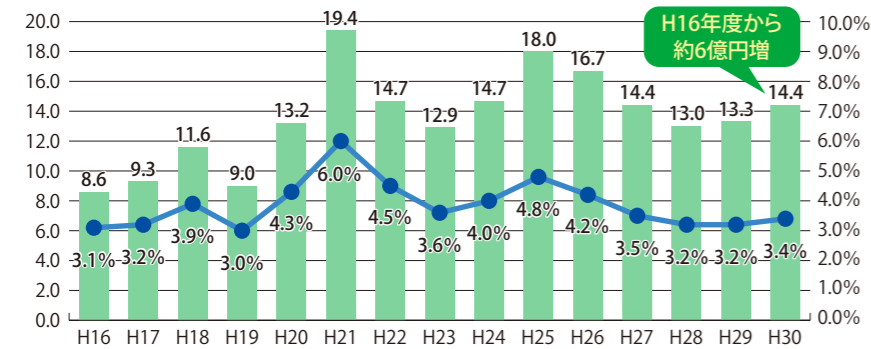
経常費用の推移(単位:億円)



ポイント

H16年の法人化以降、経常費用は140億円以上増加しています。
主な、費用の推移を下のグラフで紹介します。

経常費用の推移①／教育経費の推移と業務費における教育経費比率の推移

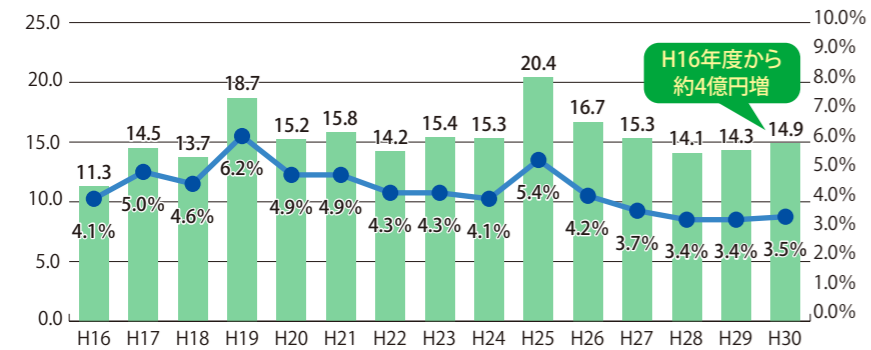


ポイント

学生の教育にかかる教育経費について、年度により大きな変動があるのは、例えば、H21年度であれば、附属学校校舎、男子寄宿舎等教育関係施設の改修に伴い費用が増加しており、大きな事業があった年度は経費は大きくなります。
なお、教育経費比率について、数値が高いほど、学生の教育にかかる教育経費が大きいことを示します。
※H30年度の病院を有する同規模大学の平均値:4.4%

■ 教育経費の推移(単位:億円)
● 教育経費比率(教育経費÷業務費)の推移

経常費用の推移②／研究経費の推移と業務費における研究経費比率の推移

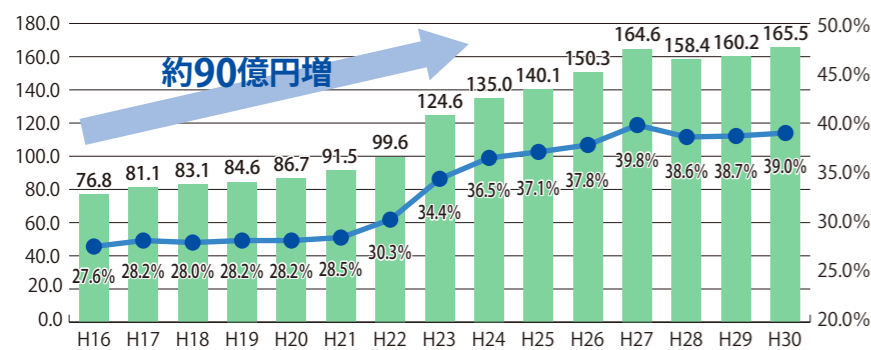


ポイント

研究にかかる研究経費について、年度により大きな変動があるのは、例えば、H25年度であれば、地域イノベーション研究開発拠点施設新築に伴い費用が増加しており、大きな事業があった年度は経費は大きくなります。
なお、研究経費比率について、数値が高いほど、教員の研究にかかる研究経費が大きいことを示します。
※H30年度の病院を有する同規模大学の平均値:4.6%

■ 研究経費の推移(単位:億円)
● 研究経費比率(研究経費÷業務費)の推移

経常費用の推移③／診療経費の推移と業務費における診療経費比率の推移



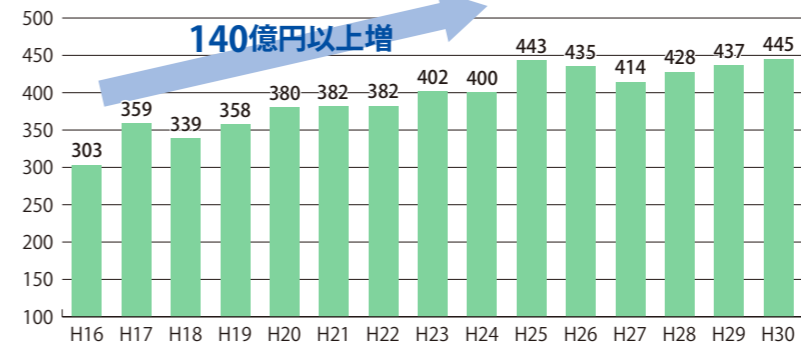
ポイント

診療稼働の増加に伴う、医薬品や医療材料等の購入の増加により、病院の診療にかかる診療経費は、増加しています。
また、H23年度の新病棟、H27年度の新外来棟開院により、診療経費が大きくなっています。
なお、診療経費比率について、数値が高いほど、診療にかかる診療経費が大きいことを示します。
※H30年度の病院を有する同規模大学の平均値:35.6%

■ 診療経費の推移(単位:億円)
● 診療経費比率(診療経費÷業務費)の推移

収入の推移

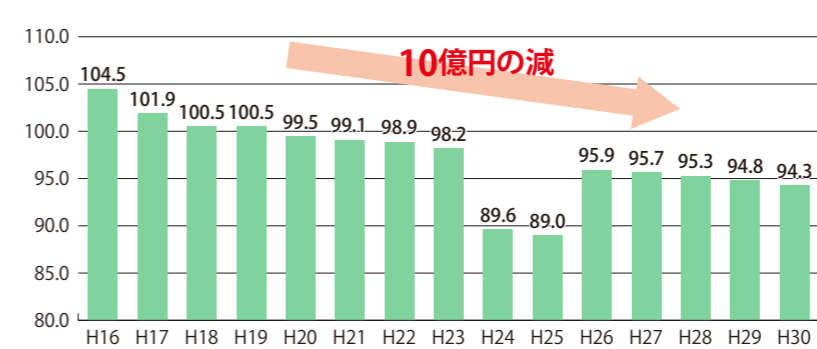
収入の推移※借入金除く(単位:億円)



ポイント

H16年の法人化以降、収入は140億円以上増加しています。
施設整備費などの補助金措置等があった年度は、大幅に収入が増えています。
主な、収入内訳の推移を下のグラフで紹介します。

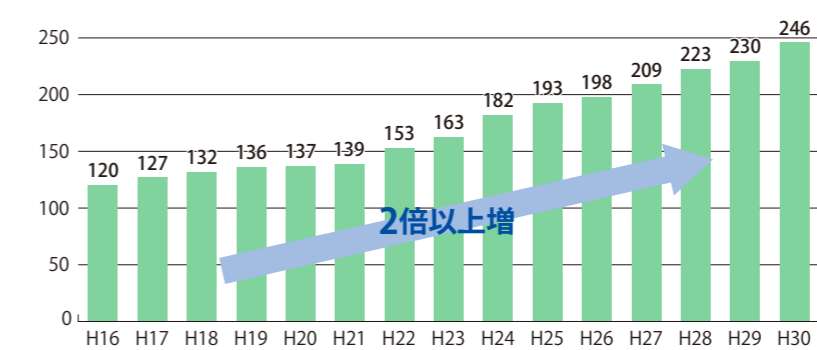
収入内訳の推移①／基盤的運営費交付金交付額の推移(単位:億円)



ポイント

国から交付される資金である、運営費交付金は法人化以降、年々削減されており、法人化当初のH16年と比べると10億円、削減されております。
そのため、業務費の支出見直しの他、外部資金等の確保による自己収入の増収に努める必要があります。
※H24・25年度は給与改定臨時特例法による減。

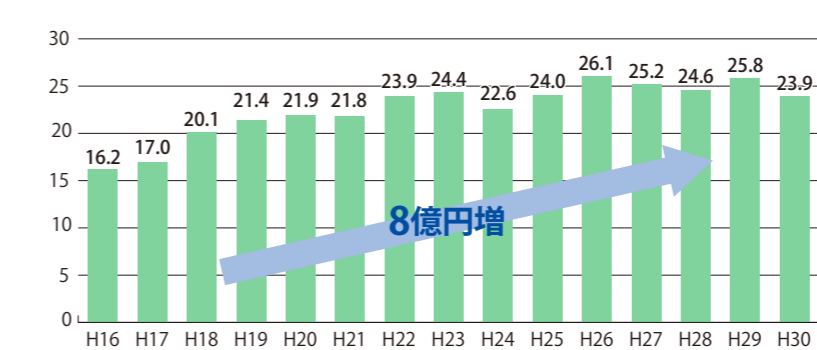
収入内訳の推移②／附属病院収入の推移(単位:億円)



ポイント

病院収入はH30年度は246億円で、法人化以降、稼働の増加により、年々増加しています。

収入内訳の推移③／産学連携等研究収入及び寄附金収入等の推移(単位:億円)



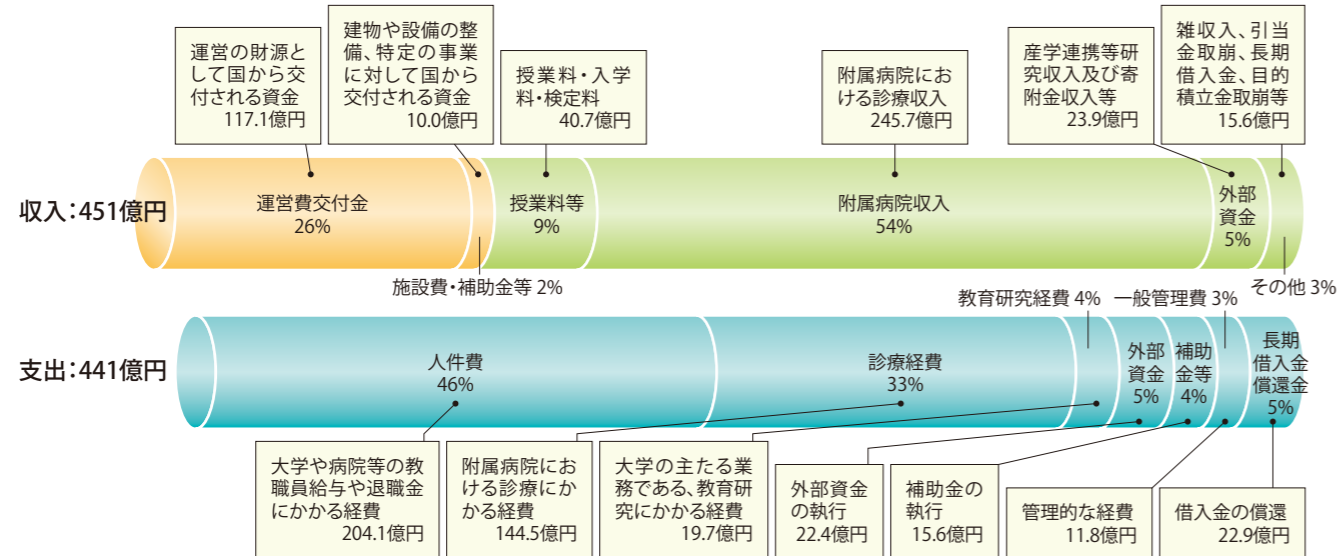
ポイント

運営費交付金が年々削減されていく中で、自己収入の確保において、外部資金の獲得はとても重要です。
県内企業を積極的に訪問したり、公開セミナーを開催するなど、外部資金の獲得拡大に取り組んでいます。

財務構造

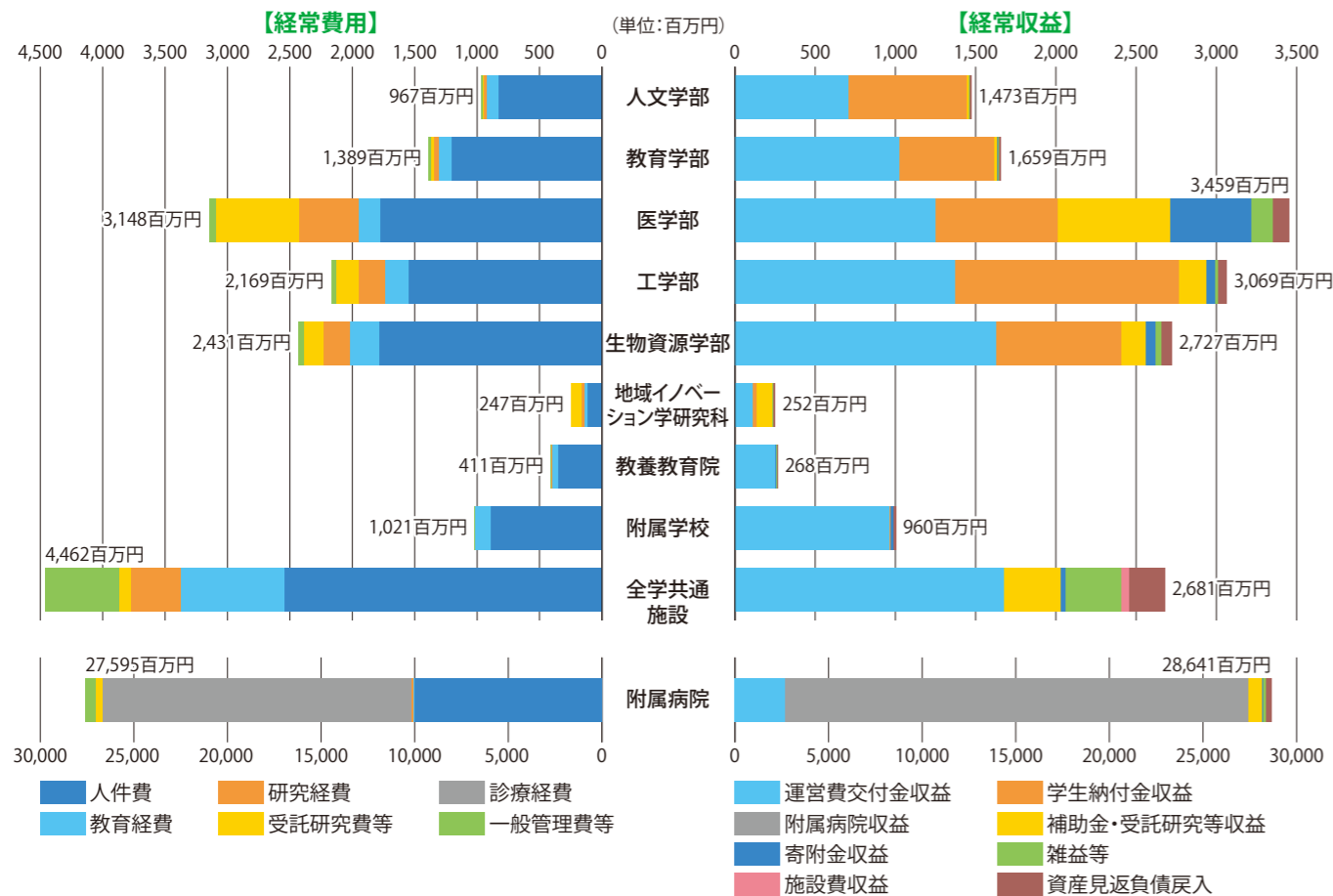
本学の収入と支出について、決算報告書(現金主義)に基づいて表します。

※前ページで紹介した損益計算書とは作成する基準が異なるため、必ずしも数値は一致しません。



部局別セグメント情報の開示

部局別の経常費用と経常収益について、金額と構成比率を表します。これにより、部局毎の規模や財務構造の違い等を表します。



国立大学法人の会計

国立大学法人会計は、企業会計原則を基本としていますが、教育・研究といった公共性や非独立採算を踏まえた国立大学法人会計基準を優先適用し、特有の会計処理を取り入れたものとなっています。

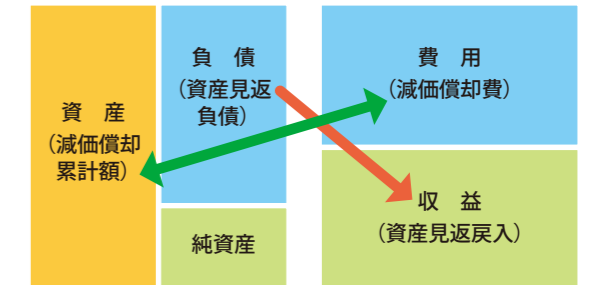
I. 独立採算制を前提としていません

◆目的は「教育」「研究」等のサービスの提供。



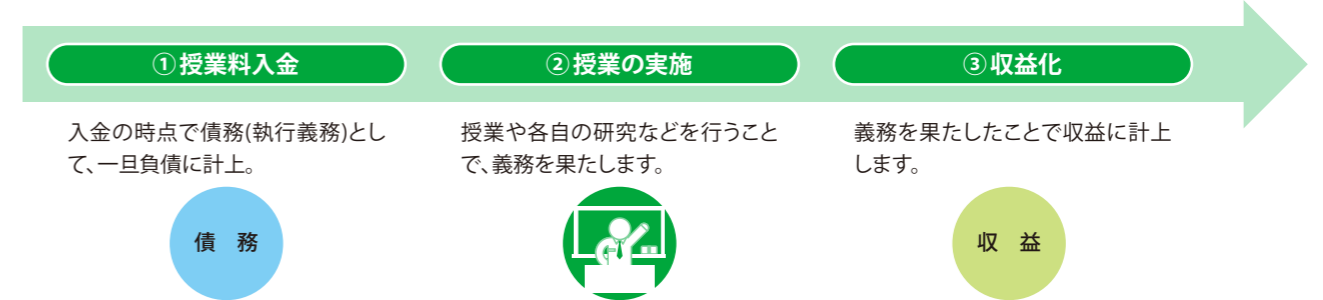
民間企業の目的が売上成績をあげることにに対し、本学の目的は「教育」「研究」等のサービス提供です。したがって、民間企業が「収益」から表記するのにに対し、教育や研究等にいくらコストをかけ、サービスの提供をしたかを「費用」から表記します。

◆通常業務を行った場合は、損益が均衡になる仕組みになります。



固定資産を取得するとそれを使用する義務が発生するため、負債勘定である「資産見返負債」に計上します。そして減価償却費を計上する都度、使用義務を果たしたとして「資産見返負債」を取崩し、収益にも減価償却費相当額を計上します。

II. 運営費交付金や授業料などの受入から収益化までの流れ(授業料の例)



III. 大学病院を持つ国立大学法人は公会計と企業会計が混在しています

大学病院では患者さんの診療を行うことが目的であり、その行為に見合った診療報酬を得ることができます。そのため、附属病院にかかる固定資産の会計処理は、上記のような国立大学法人特有の処理(資産見返)は適用されず、民間企業とほぼ同様の処理になります。このように、「国立大学法人の特殊な会計処理」の中に附属病院の「企業会計」が混在していることとなります。

